資料１－１

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度事業報告にあたり（法人としての総括）

令和3年度の事業を進めていくに当たり、5年から10年の中長期事業計画を作成し、その計画に基づいた事業運営を行いました。中期事業計画の初年度として、現在建設が進んでいるボールパークに関係する機関との連携をはかり、施設周辺の環境変化に適切に対応した事業再編・施設整備を計画し事業展開を行いました。具体的には就労センタージョブを移転し新規施設を整備しました。また、重症心身障がい児者の支援拠点整備と通所及び就労系事業所の課題解決のため、北広島コラボを新規開設し、併せて機能訓練センターの専用スペースを整備しました。

事業については、年間を通した新型コロナウイルス感染拡大の波（4派～6派）が影響し、利用者様へのサービスや地域社会への取り組みに多くの制約がかかり満足な計画の遂行が出来ませんでした。そんな中でも4月に「看取り援助推進室」を新設し、既に特別養護老人ホーム東部緑の苑で行っている「看取り援助」を障がいの居住系サービスで取り組み1件のお看取りを行うことが出来ました。一方で11月に、職員の利用者様への不適切な支援があり、北海道・石狩振興局・北広島市からの勧告、改善の文書を受け、役職員一同真摯に受け止め、再発防止に向けて改善計画を立て一丸となって取り組んでいることを報告させて頂きます。

さて、平成3年度の決算内容についてですが、収益面ではサービス活動増減差額で1億1千4百万円のマイナスと大変厳しい決算でした。特に就労支援事業（製パン・弁当販売・レストラン等）はコロナ禍の影響を受け当初予算から約5千万円マイナスになりました。しかしながら今年度新規事業として始めた自治体向けの製袋事業では、約1千5百万円と僅かではありますが増収となり、次年度以降に期待が持てる事業となっています。その他の事業所においても新型コロナ感染拡大防止の観点から短期入所の制限や事業の一時縮小など計画通りの執行が出来ませんでした。費用の面においては、新規職員の採用・職員処遇改善のための手当や一時金の支給により、人件費が前年と比較して約６千万円の増加となっています。また新設事業所や移転に伴う減価償却費および設備備品の費用が増加しました。いずれも次年度事業に対する必要な投資であり、新年度以降の事業でチャレンジを重ね挽回をして参ります。

令和12年（2030年）迄の長期計画では、SDGs（エスディージーズ）への取り組みを念頭に、北ひろしま福祉会の「すべての人の幸福（しあわせ）のために」という法人理念達成のため、持続可能な社会の実現と地域共生社会の実現に取り組んで参ります。

１．長期事業計画・10年（2021年から2030年SDGsの最終ゴールの年度 ）

事業計画	進捗状況
（１）幸福（しあわせ）を追求する事業展開 ①サービス提供事業の基盤強化 ②切れ目のない支援体制の構築 ③多様な相談支援ができる体制の強化 ④福祉と医療の連携 （２）地域福祉の推進を図る取り組み ①誰もが活躍できる地域活動の場づくり ②地域ニーズと社会資源を結び付けた地域活動の推進 （３）災害に強い法人づくり ①安心して暮らし続けられるシステムづくり ②地域の災害時のための関係機関との協力体制づくり ③被災地への派遣など広域的な活動システムづくり （４）魅力ある法人づくり ①楽しい職場づくり ②地域とのネットワーク構築／社会とのつながり ③情報の積極的な活用／伝える工夫 （５）事業を継続するためにサービス活動収益　年２．５％の成長を維持する ２０３０年到達目標　サービス活動収益　対２０２１年度比 １２５％以上 （年2.5%の根拠は２０１９年経営協の現況報告による全国平均が2.31%である） （６）総資産経常増減差額率１．２％以上を維持する ２０１９年経営協の現況報告による全国平均が1.19%である 社会福祉法人の事業の効率性と収益性を同時に示す指標である。 （ROA）	令和3年度から新たな10年間の長期事業計画を、大きく６の項目に分け計画の内容により、国連が定めた持続可能な開発目標ＳＤＧｓ17のゴールの内11項目にあてはめ作成し取り組んでいる。 令和3年度はその初年度として計画に沿って事業を展開している。個別具体的には中期計画に対する報告、令和3年度事業に対する報告、各事業ごとの報告において進捗を報告する。 引き続き長期計画に沿った事業運営に努めていく。

２．中期事業計画・５年（２０２１年から２０２５年）

事業計画	進捗状況
【基本計画】 北広島市、北海道日本ハムファイターズ、エスコンフィールド北海道、大林組など、ボールパークの整備に関係する機関との連携をはかり、施設周辺の環境変化に適切に対応した事業再編・施設整備を計画し事業展開を行います。 （１）事業の再編と施設整備 ボールパーク整備に伴い、移転が決定した就労センタージョブ及びいんくる（仮称）の整備については、現行事業の継続のための整備とはせず、該当事業所以外の事業所の課題を解決するための整備を実施します。また、各施設の修繕に向け施設整備に係る積立金を予算化し原資の確保をしていきます。 （新規施設整備） ① 就労センタージョブの整備 ② 就労系事業所の再編 ③ 重症心身障がい児者の支援拠点整備 ④機能訓練センターの整備 ⑤障がい者用グループホームの整備 ⑥デイサービスセンターヴェールサテライトの整備	北広島市、北海道日本ハムファイターズ、日本エスコン株式会社等とボールパーク開業後、今後の関りを考慮しながら関係構築に努めた。 就労センタージョブ及び北広島コラボについては、施設整備補助金、旧敷地や建物の売却益、福祉医療機構からの借入金による整備を実施した。就労センタージョブについては提供する商品の内容や大型の注文に対応出来るよう整備し令和4年4月からの本格稼働に向けて準備をした。また、北広島コラボは重症心身障害児者の専門支援個所としての設備を、機能訓練センターには充実したメニュー可能とする設備の整備をした。 ①令和3年11月完了 ②生活介護事業所も含め再編し令和4年4月から事業開始 ③令和4年3月北広島コラボ内に整備、4月から使用開始 ④令和4年3月北広島コラボ内に整備、4月から使用開始 ⑤令和3年度施設整備補助金を活用し令和5年1月整備予定 ⑥令和3年4月から事業を開始

事業計画	進捗状況
（既存施設の修繕） とみがおかの空調設備及び暖房設備については、防衛省の補助金を活用し令和4年度を目途に改修をします。また、とみがおか及び共栄の外壁塗装及び屋上防水シート貼替については、状態を確認し次年度以降に実施します。東部緑の苑についても令和5年に竣工10年目を迎えることから修繕の必要性が出てくるものと予測されます。以上の整備に向けた資金として施設整備積立金を積み立てていきます。	とみがおかの空調設備及び暖房設備の改修に向けて、北海道防衛局による島松演習場の騒音の調査が実施されましたが、規定の騒音数値が検知されず令和5年度からの工事開始は見送りとなったが引き続き取り組んでいく。各施設の屋上防水シートの状況を確認し、とみがおか、共栄、北広島デイセンターについては令和4年度に改修工事実施する。
（２）地域社会への取り組みについて 地域で求められている課題解決に向けて法人の資源を活用して取り組んでいきます。 介護講座、みんなde食堂、地域住民を対象としたイベントを年間計画に基づき実施していきます。また、町内会と情報交換し課題に取り組んでいきます。また、法人本部については地域防災の拠点としての役割を担うと共に、法人の事業内容や活動、役割などについての広報活動につとめていきます。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあり十分な活動は出来なかったが、地域貢献推進部が中心となり取り組みをした。個別具体的な内容は地域貢献推進部事業報告にて報告する。
（３）職員処遇の改善と多様な人材の確保について 職員の職場定着のため、給与面における改善の他、制度の充実による安心して働ける環境の整備に取り組んでいきます。また、人材不足に対応するため、多様な人材の確保に取り組みます。引き続き新卒採用の他、高齢者、育児や介護などで配慮の必要な方等の中途採用にも積極的に取り組みます。外国人技能実習生等を採用し福祉技能を通じた国際貢献に取り組みます。	職員が安心して働き続けられる職場環境の整備に努めている。なお、外国人技能実習生の採用は新型コロナウイルス感染症の流行により進んでいない。
（４）サービスの質の向上への取り組みについて 利用者サービスの質の向上を図るため、しまニチュード※、看取り援助、おまかせうんチーム※、発達障がい　支援、ノーリフトケア推進等、各チームによる取り組みを強化します。 ※しまニチュード・・相手に想いを伝えるコミュニケーションツール、　おまかせうんチーム・・排泄支援に関するチーム	利用者サービスの質の向上に向け、各委員会を中心に取り組みを実施している。
（５）看取り援助の取り組み 今後の居住系事業の運営については、既に東部緑の苑で行っている「看取り援助」の充実と障がい者居住系サービスにおける「看取り援助」に取り組んでいきます。	看取り援助推進室と看取り援助推進委員会が活動の中心となり、障がい者居住系サービスにおける看取り援助の在り方について検討してきました。令和3年度は1名の入所施設利用者の看取り援助を実施した。

３．令和３度事業計画

事業計画	進捗状況
【基本計画】 中期事業計画及び長期事業計画の達成に向け、また、法人事業及び施設・設備の整備をすすめていきます。なお、整備にあたっては新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ自然災害だけでなく感染症流行に備えた整備とします。また、女性の役職への登用や、将来を担う人材の育成に向けた人事制度の整備をおこないます。	令和３年度に予定していた施設整備は、災害や感染症流行時などに備えた整備を実施した。また、女性を積極的に役職へ登用した。なお、人事制度の整備については、今後の社会環境の変化や職員各層からの意見を取り入れるなどした整備を今後すすめていく。
（１）施設整備及び設備整備について ①就労センタージョブ新築令和３年１１月末完成予定	令和3年11月に完成引渡された。
②いんくる（仮称）新築令和３年６月着工、令和４年３月末完成予定 ※重症心身障害者専用スペース、機能訓練センター専用スペース整備 ※国庫補助金の状況により実施年度変更の可能性あり	令和4年4月事業開始新規事業所「北広島コラボ」として完成引き渡された。建物内1階には重症心身障がい者の支援拠点、機能訓練専門スペースを設置した。

事業計画	進捗状況
③駐車場整備（広場めーでる）令和３年３月着工、令和３年７月頃完成予定 ※就労センタージョブ新築工事残土、ボールパーク関連道路工事残土利用による埋め立て工事	就労センタージョブ工事に伴う残土は土壌の質が良くなかったことから、ボールパーク周辺道路工事による残土を活用し駐車場の整備を実施した。なお、完成は北広島コラボ工事の関係で令和4年度となった。
④その他必要に応じて実施	改善や修繕が必要な個所については、可能な限り時間を置かず整備した。
（２）事業について	
①就労センタージョブ事業の見直し	事業収支の改善するよう組織の改編、事業内容の見直しをおこなった。
②看取り援助推進室の新設	看取り援助推進室を立ち上げ、利用者が望む場所で最期まで生活できる場所として入所系施設における看取り援助実施に向けた取り組みを始めた。
（３） 人事制度等について ①女性の積極的な役職登用 ②現行人事制度の再検証（昇格、評価制度等） ③ＳＤＧｓに基づく外国人材の採用（技能実習生等）	3名を課長職へその他各役職への女性の登用をおこなった。 引き続き取り組んでいく。 新型コロナウイルス感染症の流行により外国人の入国に制限があり、取り組みが出来なかった。引き続き取り組んでいく。
（４）地域社会への取り組み	
①介護講座、健康講座等の開催	新型コロナウイルス感染症の流行により1回のみの実施となった。引き続き取り組んでいく。
②子どもを含めた地域住民の食育を目的とした「みんなde食堂」の開催	新型コロナウイルス感染症の流行により個別の実施は見送り、屋外での活動となる災害時の炊き出し訓練と合わせて実施した。
③地域住民との交流や防災に備えたイベントの開催 ④町内会との情報交換 ⑤献血活動への積極的な取組み ⑥様々な機会を通じて法人の広報活動の実施	地域貢献推進部が中心となり町内会活動へ積極的に参加した。 地域貢献推進部が中心となり2回開催した。 様々な活動を通じ広報活動に努めた。
（５） 災害や感染症に強い仕組みづくり	
①地域の防災拠点、福祉避難所としての施設整備	法人本部の非常用電源回路の整備や新たに新築した北広島コラボを福祉避難所として登録する整備を実施した。
②感染症対応の経験から得たスキルや知識を、法人での今後の対策に生かしていく他、感染症対策の　トップランナーとして他法人での発生時には積極的に支援をしていく。	令和2年度の新型コロナウイルス感染症クラスターでの経験を生かし、他法人へ感染症対策スキルの提供や人的派遣を実施した。
（６）法人経営について ①サービス活動収益　年２．５％の成長の確保 ②総資産経常増減差額率１．２％以上を維持	目標達成にむけ引き続き取り組んでいく。

◇職員について

年　齢

	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	７０歳以上	平均年齢
障がい福祉事業	81	99	57	40	26	15	39.9
介護保険事業	18	12	21	21	13	0	44.2
その他	2	14	10	9	11	2	48.4
法人全体	101	125	88	70	50	17	41.6

※令和4年3月31日現在。パート職員含む。

男女比

	男性	女性	合計
障がい福祉事業	163	155	318
介護保険事業	30	55	85
その他	28	20	48
法人全体	221	230	451

※令和4年3月31日現在。パート職員含む。法人全体には法人本部職員を含む。

障がい者の雇用率

2.13%

平均賃金

	北ひろしま福祉会平均	介護職員北海道平均
正規職員平均月収	263,656円／月	226,000円／月
正規職員平均年収	4,000,628円／年	3,159,800円／年

※法人平均は係長以下の正職員（一般嘱託含）平均。北海道平均は令和２年賃金構造基本統計都道府県別賃金を参照。

平均勤続年数・採用者・離職者

	平均勤続年数	年間採用者数	年間離職者数	離職率
障がい福祉事業	7.8	47	26	8.3%
介護保険事業	5.5	11	6	7.0%
法人全体	7.4	64	34	7.7%

福祉系資格保有人数

	介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士	保育士
障がい福祉事業	107	23	12	35
介護保険事業	50	4	1	0
法人全体	168	34	13	35

※令和4年3月31日現在

有給休暇・リフレッシュ休暇の取得状

	付与人数	有休付与総数	有休取得日数	1人当平均取得数	有休取得率	リフレッシュ休暇取得率
障がい福祉事業	228	3,767	3,142	14.6	83.4%	100%
介護保険事業	73	1,049	843	12.9	80.3%	100%
法人全体	341	5,222	4,438	14.6	85.0%	100%

役職者の状況

	主任	係長	課長	部長	合計	構成比
男性	34	22	11	14	81	73%
女性	19	7	3	1	30	27%
全体	53	29	14	15	111	100%

※令和4年3月31日現在

◇利用者について

定員・稼働率

	とみがおか	共栄	就労センタージョブ	北広島デイセンター	北広島セルプ	グリーンパーク北ひろ	つなぐ
定　員	80	77	60	60	76	118	10
平均稼働率	98.9%	100.8%	81.8%	113.8%	93.1%	97.0%	97.0%

※とみがおか、共栄は入所利用者。就労センタージョブは8月迄定員40名。グリーンパーク北ひろは12月迄定員117名

	東部緑の苑	短期入所東部緑の苑	ヴェール
定　員	100	20	35
平均稼働率	98.1%	75.6%	56.9%

※ヴェールは5月迄定員25名

看取り援助件数

事業所	人数
東部緑の苑	24
共　　栄	1

※令和3年4月～令和4年3月

入所施設の待機者数

事業所	待機者数
とみがおか	47人
共　　栄	32人
東部緑の苑	29人

※令和4年3月31日現在

就労事業平均工賃

事業所	平均工賃
就労センタージョブ	24,919円
北広島セルプ	13,502円

◇その他

インシデント及び事故の発生状況

	とみがおか	共栄	就労センタージョブ	北広島デイセンター	北広島セルプ	グリーンパーク北ひろ	めーでる	フィットマン
気づきメモ	54	35	22	89	49	75	0	0
インシデント	10	14	0	9	1	9	0	0
事　　故	1	6	0	2	1	3	0	0

	つなぐ	相談室ここにここに	東部緑の苑	ヴェール	ｹｱﾌﾟﾗﾝｾﾝﾀｰ東部緑の苑	法人本部	法人合計
気づきメモ	13	0	0	0	0	0	337
インシデント	1	1	172	4	0	4	225
事　　故	0	0	39	2	0	0	54

※気づきメモ＝ヒヤリハット、介護事業では全てインシデントとして対応

身体拘束および虐待の状況

（身体拘束の状況）

施設名	とみがおか	共栄
概要	手などの抑制	車椅子ベルト・ベッド４点柵
実施人数	1名	１名
拘束期間	令和3年9月4日3分程度	１年間
内容	自傷行為を止めるため手、腕を抑える。	転落防止のため、車椅子乗車時にベルト、就寝時にベッド４点柵を使用。

施設名	北広島デイセンター	北広島デイセンター
概要	手などの抑制	手などの抑制、ホールディングス、場所移動
実施人数	1名	１名
拘束期間	令和3年5月12日～9月30日	令和3年11月1日～12月1日
内容	利用者自身の排せつ物を手で取ろうとする行為に対して、手又は手首を抑える	自傷や他害につながる行為がみられた時に、手を抑える、ホールディングスをおこなった。また、不調時に部屋を移動する。

施設名	北広島セルプ	とみがおか・共栄
概要	手などの抑制	ホールディングス、レストレーナー使用
実施人数	1名	複数名
拘束期間	令和3年10月5日3分程度	医療行為、歯科治療時
内容	職員への暴力と物品を投げつける行為があり手首を抑える。	入所施設利用者の採血や医師の診療時にホールディングスをおこなった。また、歯科治療時のレストレナーを使用した。

※当法人では原則として身体拘束は行わない。しかし、以下の「緊急やむを得ない場合」の3要件に該当する場合は身体拘束をおこなう事もある。（「緊急やむを得ない場合」の3要件　①切迫性、②非代替性、③一時性）

（虐待の状況）

施設名	東部緑の苑	北広島デイセンター
発生日	令和3年10月4日	令和3年10月14日
経過等	介護職員が、入居者のトイレ介助の拒否行為に対して利用者の右頬及び首あたりを強く押さえつけ左頬骨の骨折及び皮下出血の怪我を負わせた（のちに暴行行為とされる）。翌日、北広島市及び北海道石狩振興局に報告。被害者家族から厚別警察署に被害届が出され、該当職員が逮捕される。北海道石狩振興局及び北広島市による監査が行われる。該当職員は傷害罪での罰金刑が確定し退職（諭旨退職）となる。法人として家族に謝罪し慰謝料を支払って和解となる。なお、監査の結果、北海道知事より令和4年1月26日に介護保険法による勧告を受け「勧告事項改善状況報告書」と指導監査文書指導に対する「改善状況報告書」を提出している。	支援職員が昼食後の利用者の行為に対して不適切な声掛けをおこなった。偶然利用者の所持していた携帯電話が自宅に繋がっていて、利用者の家族が不適切な声掛けを聞き事象の発覚に及ぶ。発生当日、北広島市に報告する。発生後、職員におこなったアンケートの結果、他にも過去に当該職員による2件の疑われる事象が報告される。北広島市及び北海道石狩振興局による指導監査があり、ご家族が利用者を思い深く傷を受けている事から「心理的な虐待」と判断された。事業所に対しても他の職員から過去の不適切な事象についての報告を受けていたにも関わらず、対応を怠っていた事に対する指摘を受けている。ご家族には改善策を説明し理解をいただいている。令和4年3月31日現在、指導監査の結果は示されていない。

感染症等の集団発生状況

施設名	共　　栄
種　類	ノロウイルス感染症
罹患者数	利用者40名・職員8名
内容	令和3年4月2日に利用者1名に症状がみられ検査の結果、共栄全体で利用者40名職員8名が感染した。千歳保健所の指導のもと感染症対応をおこない5月6日に終息した。

施設名	グリーンパーク北ひろ
種　類	新型コロナウイルス感染症
罹患者数	利用者３名・職員３名
内容	令和3年5月8日にグリーンパーク北ひろの男性職員1名が新型コロナウイルスへの感染が確認され、レクリエーション行事をつうじて複数のグループホームの利用者への感染が拡大した。また、職員への感染もありクラスターとなった。千歳保健所、北海道石狩振興局、北広島市による対策本部が設置され対応にあたった。感染した利用者2名が中等症となり入院したが治療の結果回復した。最終的には5月28日に終息となった。

行政監査・実地指導

施設名	実施期日	種別	結果
とみがおか	令和3年10月25日	実地指導	指摘事項無し
共　　栄	令和3年10月25日	実地指導	指摘事項無し
就労センタージョブ	令和3年10月28日	実地指導	指摘事項無し
北広島デイセンター	令和3年11月25日	監　査	虐待事案に関する監査　結果待ち
北広島セルプ	令和3年10月28日	実地指導	文書指導 社会生活支援特別加算の個別支援計画への記載がない。また、要件とされている研修の未実施。状況を改善し改善状況報告書を提出。
グリーンパーク北ひろ	令和3年10月29日	実地指導	指摘事項無し
東部緑の苑	令和3年10月7日～27日	監　査	虐待事案に対する監査 勧告 介護保険法に基づく事業の人員、設備及び運営に関する基準等の順守 文書指導 非常勤パート職員への研修機会の確保 指摘された事項の改善に向けた取り組みの実施と勧告事項改善状況報告書及び改善状況報告書の提出

車両事故の発生状況

	令和2年度	令和3年度
過失あり	4件	31件
過失なし	1件	4件
合　計	5件	35件

	とみがおか	共栄	就労センタージョブ	北広島デイセンター	北広島セルプ	グリーンパーク北ひろ	めーでる	フィットマン
過失あり	1	0	2	8	5	3	0	2
過失なし	1	0	0	1	1	0	1	0
合　計	2	0	2	9	6	3	1	2

	つなぐ	相談室ここにここに	東部緑の苑	ヴェール	ｹｱﾌﾞﾗﾝｾﾝﾀｰ東部緑の苑	法人本部	法人合計
過失あり	1	0	0	4	1	4	31
過失なし	0	0	0	0	0	0	4
合　計	1	0	0	4	1	4	35

※35件中24件が1月と2月に集中して発生しており、大雪の影響を受けていると思われる。

車両保有状況

	とみがおか	共栄	就労センタージョブ	北広島デイセンター	北広島セルプ	グリーンパーク北ひろ	めーでる	フィットマン
自己所有	0	0	2	1	6	0	0	0
リース	5	7	10	16	5	6	2	2
合　計	5	7	12	17	11	6	2	2

	つなぐ	相談室ここにここに	東部緑の苑	ヴェール	ｹｱﾌﾟﾗﾝｾﾝﾀｰ東部緑の苑	法人本部	法人合計
自己所有	0	0	1	0	0	4	14
リース	3	1	5	5	3	3	73
合　計	3	1	6	5	3	7	87

法人本部

令和３年度

事　業　報　告

人事部

経理部

地域貢献推進部

施設危機管理部

利用相談センター

機能訓練センター

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　人事部　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

コロナ感染により新卒の採用活動（非対面・説明会中止等）に大きく影響を受けたものの、令和4年度新卒採用が16名（目標20名）と前年を上回ることが出来たのは地道な採用活動によるものであった。 人材定着の面においては、退職者数は昨年を下回るものの障害部門の正職員の退職者の増加が見られ、次年度以降も気がかりである。多様な働き方（職種変更）については11名が選択、制度の有効性が確認出来た。 ホームページやSNSへの取組みについては、期待する内容に刷新することは出来なかったため次年度以降に課題を残した。

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
採用促進	福祉職場のイメージアップ	11/13（土）「福祉のリアルが聞けるるセミナー2021」（８法人共催）を開催。 （会場参加 18名・オンライン参加 16名） 1/22（土）「福祉の世界ふれあいフェア」（ブランチ札幌月寒）に参加。
採用促進	新卒採用20名の確保（令和4年度採用）	ZOOMを活用し、説明会や面談を随時開催。 令和4年度採用人数　内定18名（うち承諾16名） 次年度も施設見学を可能な限り継続し、目標人員に近づけるよう取組んでいく。
採用促進	中途採用向けた取組 ・WEBサイトを有効活用した取り組み ・職員紹介採用 ・星槎道都大学とのｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ連携	（中途採用実績） 正職員　23名（障がい15名・高齢6名・他2名） 一般嘱託　2名（障がい・高齢） ﾊﾟｰﾄﾀｲﾑ 28名（障がい23名・高齢1名・他4名） ・ハローワーク・Indeed・陽だまりPRESS 法人ホームページ採用による採用 ・職員紹介による採用 共栄１名・東部緑の苑５名 ・地域貢献推進部による星槎道都大学との ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ連携による採用　11名
人材の定着	法人全体の離職率5％台を目指す 障害　5％（14名以下） 高齢　7％（6名以下）	（退職者）　正職員・一般嘱託　20名 ﾊﾟｰﾄﾀｲﾑ嘱託　14 名 全体　7.7％（34名／443名） 障害　8.3％（26名／312名） 高齢　7.0％（6名／85名）

人材の定着	多様な働き方の促進 （非正規雇用⇔正職員⇔限定正職員）	パート　→　限定正職　2名 限定正職　→　総合職　1名 一般嘱託　→　限定正職　1名 総合職　→　短時間限定　2名 総合職　→　一般嘱託　2名 パート　→　一般嘱託　1名 総合職　→　限定正職　2名
人材の定着	多様な働き方の促進 （障害者雇用率の厳守）	令和3年度報告はクリア （法定雇用率　2.3%）
人材の定着	有休休暇取得促進	現在、令和３年度分の取得率を集計中。 集計結果を周知するとともに、有休取得の制度についても今一度案内し適正な取得を促す。
人材の定着	表彰制度の充実化	令和3年上期きらり・スピリッツ賞　12名授賞
人事制度の検証と改定	健康経営優良法人の認定申請を行う	健康経営優良法人2023の認定に向けて調査中
人事制度の検証と改定	男性の育休取得	セルプ　W職員　6/10～7/11 東部　A係長　7/23～8/31 とみがおか　O副主任　1/18～2/20 取得促進に向けて情宣をすすめていく。
能力開発室による人材育成の強化	スタンダード研修の充実に向けて	虐待・不適切支援の事象を起こした法人として、「チーム支援」の研修充実を研修委員会に提案した。（「虐待防止に効果を発揮するチーム創り」を念頭にした研修の中身）来年度以降その方向で研修が展開される予定。
能力開発室による人材育成の強化	復職者へのフォローアップ研修	フォロー研修・・・２度（５名）実施している。 今年度よりこの研修についてもレポート提出を求めた。 フォロー研修の法人内講師の育成については、候補者が特定できていないのが今後の課題である。
能力開発室による人材育成の強化	役職者の役割の周知と育成	役割が各人で明確化できるよう「課長が主催する係長研修」を提案し、実施した。 効果としては目に見えたものは少ないが、この研修を継続して課長の役割・係長の役割を明確化していく。

能力開発室による人材育成の強化	福祉３資格の取得促進	各事業所管理職へ受験するよう「声掛け」をした。 社会福祉士・介護福祉士とも、直前の講習会を実施した。 社会福祉士については、実習受け入れ委員会主催の「応援の集い」を行った。 今年度合格者は、介護福祉士9名（男性７名、女性２名） 社会福祉士　１名（女性） 評価としては、合格者が少し少ないと感じる。さらに受験者と合格者が増えるよう取り組んでいく必要がある。
能力開発室による人材育成の強化	しまニチュードの運営事務局 社会福祉士実習受入委員会 保育実習受入委員会	事務局としてより効果的な実習が行えるよう助言した。
能力開発室による人材育成の強化	ボランティアおよび学生等アルバイトの募集・集約	インターン生の受け入れは「地域貢献推進部」と連携して行った。星槎道都大学・札幌学院大学を中心に受け入れを行った。
能力開発室による人材育成の強化	その他	デイセンターの虐待事象に際して職員育成として、当該職員の個別研修を行った キャリアパス研修の実施メンバーに加わった。
女性職員が安心して働ける職場づくりへの取組	女性活躍推進委員会	・ダイバシティに対応するため新たな方向性について検討中 ・就労センタージョブとコラボ弁当の実現化 次年度に向けて新商品の発売を進めている。

看取り援助推進室による取り組み	（目標） 活動体「看取り援助推進委員会」の立ち上げ （取り組み・行動計画） ・北ひろしま福祉会の看取り援助共創開始 ・委員が「看取り援助」を語れるようになるための学び・意見交換。 ・意思決定支援における情報交換・意見交換。	委員の「看取り援助」に対する考え方の育成、ミッションの共有に時間をかけた。 事業形態が多様なため、まずは入所施設を中心に活動を開始した。
看取り援助推進室による取り組み	（目標） 介護保険「看取り介護」の考え方を基準にした仕組み作り （取り組み・行動計画） 看取り援助に関する基本指針（障がい分野）の作成と活動開始	指針を完成させた。 今後、法人内に策定指針、実行した看取り援助を周知していく。 行政や地域、家族会等に実践を報告していく。
看取り援助推進室による取り組み	（目標） 看取り援助の基礎になれる特養になる （取り組み・行動計画） 高齢部門看取り援助指針・援助内容の見直しをサポート	サポート完了。東部緑の苑として検証中。
看取り援助推進室による取り組み	（目標） 看取り援助の実践を経験する （取り組み・行動計画） ・共栄看取り援助対象者への介入 ・個別支援として看取り援助実践をサポート	2月に共栄で「看取り援助」の実践を行い大きな経験ができた。 職員の多くが仕事に対する達成感を得ることができた。その際に外部連携いただいた緩和ケアの専門家である医師・看護師たちからもお褒めの言葉をいただいた。死を間近にした人に対しても単に守りに入ることなく、大切な「いのちの時間」に望みを叶えて生ききることを追求する当法人の看取り援助の支援方針は社会に求められていると考えており、本活動の普及で地域貢献していけることを確信している。
看取り援助推進室による取り組み	共栄が元気で楽しい職場になる（職員の定着） （取り組み・行動計画） 共栄元気プロジェクトサポート	ハード面から始まり、ソフト面へと展開中。 変わること、変えることに挑んでいる。 2月の看取りにおける職員間の支え合いも大きな成果となった。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
ICTの取組強化	給与管理システム変更	システムの移行は進んではいるが、WEB明細への取組みに至らなかった。
ICTの取組強化	介護報酬改定に伴い、加算算定の条件となるDBへの入力について、事業所がスムーズに行えるよう支援を行う。	LIFEのDB稼働をスムーズに行うことができた。 以降、必要に応じてサポートを行った。

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
広報力のアップ	法人ホームページ ＳＮＳコンテンツの充実を図る	各平均週1回の更新した。 FacebookやInstagramとホームページを連携し、広く法人の最新情報を提供。
広報力のアップ	法人外広報誌「蝦夷援護咲く」の作成	年間発行完了（前期10/31・後期3/31）。
広報力のアップ	動画配信サービスを利用し事業所内の様子や取組を適宜アップする	Youtubeなどの動画作成や配信には至らなかった。
福祉の仕事の魅力をアピール	近隣の社会福祉法人との連携による「福祉のリアルを知るセミナー」を開催	11/13（土）「福祉のリアルが聞けるるセミナー2021」（８法人共催）を開催。 （会場参加 18名・オンライン参加 16名） 1/22（土）「福祉の世界ふれあいフェア」（ブランチ札幌月寒）に参加。

４．その他

採用関連	令和３年度　採用活動実績	採用試験実績
4月	・マイナビ就職イベント参加（4/3） ・WEB説明会実施（4回）	4/20　1名受験
5月	・WEB説明会実施（1回）	なし
6月	・WEB説明会実施（3回）	6/18　3名受験
7月	・札幌子ども専門学校合同企業説明会参加（7/13） ・WEB説明会実施（3回）	7/13　5名受験
8月	・WEB説明会実施（2回）	なし
9月	・マイナビ就職イベント参加（9/2） ・ダイヤモンド就活ナビ就職イベント参加（9/16） ・WEB説明会実施（5回）	9/9　1名受験 9/24　4名受験
10月	・WEB説明会実施（2回）	10/27　3名受験
11月	・WEB説明会実施（1回）	11/11　1名受験 11/26　3名受験
12月	・WEB説明会実施（1回）	12/14　1名受験
1月	・福祉の世界ふれあいフェア（1/22） ・WEB説明会実施（3回）	なし
2月	なし	2/8　1名受験
3月	なし	なし

令和３年度　経理部　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

日常業務の処理をつうじて職員一人ひとりのスキル向上に取り組をしています。また、中期目標に掲げたRPA（Robotic Process Automation）を導入し可能な業務の自動化ぼ拡大に取り組みました。また、管理部門の効率化により職員１名を現場事業所に異動させ部門の縮小を図りました。なお、給付費請求において要件の認識不足及び確認不足から過誤請求があり、経理部の視点から事業所と連携して今後発生させない様取り組みを始めた。

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
業務の効率化	・単純業務のRPA化	RPAシステムを導入し可能な事から業務の効率化に取り組みを開始した。
事業所との信頼関係の強化	・月次予実管理の分析と情報提供	月次予算の執行状況についての情報提供は、全体として十分とは言えない。情報提供の内容や提供方法を検討し引き続き取り組んでいく必要がある。
	・事業所会議への出席 ・事業所行事への参加	事業所会議や行事への会計担当者の出席については、コロナウイルス感染症流行もあったが十分とは言えない。事業所とよりコミュニケーションを深めるためにも引き続き取り組む必要がある。
	・日常の情報交換とコミュニケーション	事業所職員との信頼性構築までは出来ていないが、徐々に改善していると思う。より一層信頼性を構築できる様にコミュニケーションを図っていく。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域活動	・地域貢献推進部活動への参加	コロナウイルス感染症の流行により活動自体が縮小しているが、一部の職員のみの参加となってしまった。今後の活動へは、職員への告知を早め積極的に参加していきたい。
	・地域の行事、祭り等への参加	ほとんどの行事が、コロナウイルス感染症の流行により中止となった。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害対策	・自然災害や感染症発生時に必要な用品の備蓄管理	物品の在庫管理をし、必要な時に必要な物品が提供出来るようにしている。
日常業務	・職員が休まざる得ない状況に備えて、書類保管のルール化、在宅ワーク手法のマニュアル作成とシミレート	在宅ワークのツールを導入し、感染症発生時などの在宅ワークに対応した。マニュアル等の整備は今後行っていく。

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員育成	・簿記資格の取得	十分に取り組めていない。コロナウイルス感染症のの影響もありますが開催方法を工夫し引き続き取り組んでいく必要がある。
	・内部研修の充実	
	・スキルアップのための外部研修参加	

令和３年度　地域貢献推進部　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

感染防止対策により、計画していた事業の多くが延期や中止をせざるを得なく予定に対し実施率は51.7％であった。この要因は、人的交流のある参加型であることや代替としてのリモートに対し抵抗感がある市民が多かったことも影響した。こんな中であっても、献血事業、子どもの居場所への市の予算計上、町内会との災害時を想定した協働訓練事業の実施や今後の法人との協力関係を議案掲載したこと、市民スポーツの普及促進に向けたコンソーシアム事業への協力、学生の卒論研究の場の提供や大学監修の支援プログラム作成、インターン生の採用は職員不足を補うことができた。また、法人事業における大型駐車場用地の確保は事業継続にも大きく寄与したものと考える。

【令和３年度事業計画の進捗状況】

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
ほっとの運営ｻﾎﾟｰﾄ	利用者アンケートの実施	主催事業の担当がそれぞれの事業で実施
	移動ほっとの実施	移動ほっと2事業＋ﾘﾓｰﾄ発信の実施
	運営委員の拡大	感染による事業休止のため現状維持
	補助事業の調査	法人と完全分離が必要なため要再検討
	共生型団体との情報交換	子ども食堂を展開する市内事業者と懇談実施
	事業のアドバイス	必要に応じた助言の実施
	子どもの居場所づくり強化	市の予算化、ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞからの寄付
みんなの相談室（生活情報の提供）	相続税の話	4月に実施済み。次回を期待する声あり。
	薬の飲み方	感染対策の一環で事業延期
	終活	
	ツボ療法	
みんなde介護（介護への準備）	シリーズ化しジャンル別に講座	＊看護ステーションおよび機能訓練
	・介護保険・制度、・老化を学ぶ	センターと概略打合済
	・食事を考える　・からだの仕組み	
	・ノーリフトケアを学ぶ	
みんなdeスポーツ	アダプテッドスポーツの推進	事業所やほっと、振興会で実施中
	大会の開催	市主催で予定し共催を予定したが中止
	コンソーシアム事業の推進	市の委員として活動。懸垂幕作成
みんなde食堂	①子ども食堂、子どもがシェフ食堂	炊出しと兼ね実施
	②高齢者食堂	炊出し時に地域の方が手伝いに参加
	③共生食堂	炊出し兼ね1回実施
みんなdeワクワク	①芋煮会（共生食堂兼ねる）	同上
	②昆虫採取	中止したが参加者には昆虫のプレゼント
	③かまくらづくり	まん延防止で中止
	④ミニコンサート	
	⑤老人クラブとの共催事業	
	⑥駐車場チョークアート	

みんなde訓練	①炊出し（共生食堂兼ねる）	朝日第1町内会会員有志と実施
みんなdeﾊﾟﾃｨｼｪ	①親子ケーキ作り	まん延防止で中止
	②親子チョコレート作り	
	③商工会ものづくりカレッジ登録	
ボランティア推進	①法人応援団の組織化と育成	組織化には至らないが地域活動が認知
	②年間予定に基づく依頼	法人としての受入が出来ず中止
	③ボランティア団体との交流	子ども食堂運営者との情報交換実施
	④市観光協会事業の応援	イルミネーション設置撤去協力
	⑤市社会福祉協議会事業の応援	小学生対象に介護体験実施
	⑥災害派遣	施設危機管理部にて対応
	⑦防犯活動	防犯協会の活動が自粛中で活動ない
	⑧献血活動	予定通り２回の実施。ﾗｲｵﾝｽﾞの協賛もあり
	⑨ベルマーク、リングプル	実施中
	⑩まちキレイ	まん延防止で中止
	⑪出前講座講師	社協事業に職員派遣

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域との協働 みんなde訓練	①隣接町内会との災害訓練	炊出しで実施
	②災害時派遣応援	施設危機管理部にて対応
	③図上訓練研修等への参加	２回とも中止となる
	④合同炊出し訓練	炊出し時にテント設営や食事の準備実施

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域とのつながり促進	①地元企業への優先発注	地元小売企業の紹介を通信で実施
	②町内会と地域課題の把握を行い解決に向けた検討実践	感染対策で交流できず
	③物品貸出、イベント応援	市民団体へテント等の貸出2回実施
	④出前講座派遣調整	社協事業への講師派遣
	⑤地域団体と軽スポーツ交流など合同レクリエーションの実施	スポーツ普及団体の講座に3回参加。 セルプの支援内容にも広がる
	⑥特典付与可能な提携店の開拓	地元小売り業者紹介の実施。今後拡大
	⑦みんなdeシリーズの開催	一部を除いて感染対策で出来ず
	⑧北教大岩見沢校との共同研究	卒論研究2件。運動機能向上について助言
法人退職者に対する関わり検討	①退職者に対する広報誌発送	未実施
	②特典付与	未実施
	③互助	未実施

４．その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等募集	星槎道都との協定に基づく学生受入	新規14名の学生と契約。配置基準に貢献
	上記以外の大学への開拓	札幌学院大5名、文教大1名とも契約
４まち会議協力	参加者の推薦および告知協力	市事業への協力。北広島市への貢献。
子ども会議協力	子どもの居場所づくりの事例発表	子ども達への講義とほっと事業の案内

令和３年度　施設危機管理部　事業計画報告

【令和３年度を終了して(総括）】

法人設備に関しては継続して対応が必要なため、今後も対応していく。 LED化に関しては数年後に蛍光灯の在庫がなくなる為、調査を開始しているが業者選定にはいたってない。 BCP等については、各災害、感染委員長が中心となり、BCP計画が各事業所の指針になるよう、現在対応をしている。完成はしているが、今後職員一人一人への周知が課題となる。 リスクマネイジメントや事故対応について、少しずつではあるが進んでいる。リスク委員間でのサイボウズでのインシデント共有により、違った視点および対応策について共有している。 交通事故については職員へ自動車保険の大幅な減額について結果をフィードバックし啓蒙している。 冬期の異常降雪による道路状況により車両事故が多発した。異常気象時の対応検討を実施している。

【令和３年度事業計画進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
安定した設備稼働	用務係の技術の標準化　向上	感染症対応で中止していた高齢用務との連携再開。協力作業している。
	点検、修理に関する業者対応および管理業務担当者の複数化	主任への引継は職員の入院休職等により、部分的進捗になった。２年後が目安なので順次進める。
	業者との連携による早急な対応	今までの業者で対応が遅延する場合、別の業者での対応を実施し生活上での不備を減らしている。
将来的な大規模修繕計画の策定	とみがおか・共栄外壁屋上防水整備	見積もりを建築業者に依頼。令和４年に屋上防水工事を実施する。その他、厨房エアコン等必要な工事を予定。
	施設の老朽化に伴う大規模修繕の可視化	補助金が確定次第、可視化を実施予定。
エネルギーに考慮した設備入れ替え	蛍光灯の市場調査を考慮しながら必要箇所をLEDに変更していく。	できるだけ資金のかからない交換方法を調査今後も継続。
	東部緑の苑、北広島デイセンター、ヴール照明のLED化調査	
	公用車の入れ替え時の適正サイズと低燃費	本部入替車両のサイズダウン実施。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
北広島市との連携による災害対策	東部緑の苑が福祉避難所指定のため、非常電源や設備を考慮した効果的避難体制を、北広島市と連携し整備していく。	消耗品およびコロナ禍における収容人員は確認しているが、北広島市からの回答含め進んではいない。
	ボールパークが災害時避難所になる計画もある為、確認を行っていいく。	現時点ではまだ進んではいない
災害時町内会との連携および本部活用	地域貢献推進部と連携し、災害食や災害対応の啓蒙実施	地域貢献推進部と連携した対応は未実施
		本部利用については、BCM委員会で今後検討をしていく

3．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
非常時の安全と生活の確保	非常発電機の定期メンテナンス	毎月の可動点検実施継続
	非常食の再検討と消費計画の見直し	在庫および賞味期限の確認と缶詰は消費。今後の詳細な消費と購入計画を災害委員会で検討実施。
	災害伝言板ダイヤルシステムの策定	システム確認終了。保護者周知の方法をBCM災害委員会で検討。継続していく。
	BCM担当者による各事業所の対応手順の標準化と対応レベルの標準化	各事業所BCP計画策定実施。BCP委員長により各事業所確認。今後も改定と職員周知を課題としていく。。
新型指定感染症発症時のBCM見直し	新型コロナウイルス等指定感染症が発症した場合のBCMの見直し、よりシステム化を目指す。	感染症対策委員会で委員長より見直し。各事業所作成完了。見直しは継続
	他法人発症時の物資等協力体制	本部職員協力により、物資協力実施。
災害時の連携協力について	災害時の連携協定の継続と他法人との情報交換	北海道災害派遣チームD-WAT４名登録を実施。北海道の研修終了。他法人との情報交換は未実施
	感染症発症時の他法人への物資提供や応援システムの確立	北海道介護職員派遣事業により、２法人５名クラスター施設に派遣。北海道の派遣要綱により実施している。

4．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
安全に働ける職場　交通事故を減少させる。	ドライバーズチェックの分析	ドライバーズチェック実施。
	事故分析による職員への注意喚起	事故件数が少ないため分析はできないが、自動車保険の契約時減額の数値を全体に周知。啓蒙している。また、安全運転管理者からの安全周知も実施。異常降雪による短期間での接触事故増加に対する対応が遅く、件数が増加した。
安心して働ける職場 リスクマネジメントにより事故分析をしっかりと行い、利用者および職員双方のリスクを減らす	法人リスク委員会におけるリスクマネジメントの再構築	リスク委員会で気づきメモの集計は実施した。リスクマネージャによる専門的分析は実施できていない。サイボウズにてリスク委員での情報交換は実施。RCA分析手法については、リスク委員会で資料開示している。
	リスクマネージャーによる専門的事故対策と対策提案システム	

４．その他

インシデント報告		
①タイヤ交換不備	ナットの増す締め忘れ	全員に複数確認指示により結果良好
②整備手配ミス	リース入替予定車輌に車検実施	ダブルチェック体制で結果良好
③ろ過装置操作不備	バルブ対応不備により配管破損	再発防止ミーティング実施　結果良好
労災	無し	

令和３年度　利用相談センター　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

新規契約件数は41件、退所手続件数は27件実施した。また、見学者の対応は全体で67件（個人62件、団体5件）となった。利用者の実習受け入れ件数は、全体で36件（養護学校関係15件、私的実習21件）となった。
例年に比べるとコロナ感染症対策のため、見学や実習の受け入れについてはともに大きく制限がかかった状況であり、予定通りに実施できない見学・実習も多く再調整に関わる業務が多く発生した。
利用者の動向においては、居住系利用者の動きが例年になく多い年であり、事務局として事務局調整会議と入居者選考委員会を各3回ずつ開催し公平性を持った対象者の候補を確認できるシステム作りと委員会の開催を令和3年度より取り組み始めた。
下半期については、通所事業再編に向けて事業所と連携を図り調整会議を開催することで利用者動向の把握に務めた。また、新規利用者の契約業務においては事業所職員と一緒にご自宅に訪問することを基本として対応した。
通所事業再編と身体拘束の適正化の整備において、契約書と重説の改訂が必要であったため改訂版を作成した。
このことにより、令和4年度の契約業務においては通所利用者約220名の契約は自動更新とせずに取り直しの対応を3月に行った。

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用契約業務	家庭訪問をして家庭状況などの利用者を取り巻く環境を確認の上で契約を行います。	各事業所の管理者、サビ管、ジョブの移転に伴う事業内容の変更箇所があり重説データの更新をその都度行った。また、監査で指摘のあった協力歯科医院の追記、身体拘束の適正化についても重説に追記を行った。令和4年度の通所事業再編に伴う契約書と重説の取り直しを3月に約220人分対応した。
障がい福祉サービス申請代行業務	施設入所者のサービス更新、変更、障がい支援区分の更新申請、法人内での施設間異動、グループホーム利用者の居宅等のサービスを本人からの依頼に基づき申請を代行していきます。	障がい福祉サービス以外の申請業務として、3月に交通費助成（タクシーチケット）154件、4月に青い鳥郵便葉書の申請153件を期限内に行った。また、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に対する非課税世帯を支援するための臨時特別給付金の申請業務を入所利用者様158人分を3月に行った。
訪問活動	養護学校関係、相談支援事業所、ご家庭へ訪問しニーズの調査を実施していきます。	コロナ感染対策により訪問は実施できていないが、事業再編に伴う案内を送付し個別ケース等の問い合わせ対応を行った。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
サービス調整会議	法人内事業所間の状況把握、今後の事業の方向性を全体共有しています。	通所事業の再編については、関係事業所で集まり半年間かけて利用者動向の把握と業務内容の整理に努めスムーズな対応を行った。

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
短期入所調整	個々のニーズに合わせた短期入所の利用調整を行い、利用者とご家族の生活を支えていきます。	短期入所再開に向けては、各事業所の方針を確認する打ち合わせを実施しながら受け入れについての調整を整えて保護者に連絡を入れている。今後、受け入れについてはモニタリングを実施しながらより良い短期入所の受け入れ調整を進めていく。
入所者選考委員会	入所対象者決定の公平性、客観性を確保するとともに、施設入所支援の必要性が高い方が適切に施設入所できるようにしていきます。	令和3年度はとみがおか1回、グリーンパーク1回、共栄1回の合計3回の選考員会を事務局担当として開催した。選考委員会の実施にあたっては、各事業所のヒアリングと地域のニーズを確認し入所判定会議シートを作成した。選考委員会実施による新規利用者3名の方が入所・入居した。選考委員会を経て入所のご案内を行った後、検討に時間を要するケースが発生しているため、利用者の日頃からの情報収集と整理には今後の課題が残るものと思われる。
苦情解決事業	「苦情解決事業」の規定通り、定例委員会を年2回開催します。苦情解決に仕組みを整備する事で、ご本人の権利保護と事業者のサービスの質の向上を目的とした仕組みの改善に結び付けていきます。	9月と3月に定例委員会を事務局担当として開催した。感染症対策により、全員揃っての対面会議の実施とはならかったが、書面決裁にはせずにZoomを使っての開催とした。3月開催の際には、北広島デイセンターの苦情案件が1件あった為、苦情受付書の作成を行った。今後は、事業所のサービス向上を目指した内容に発展できるような気づきメモの活用や話し合いの場が必要になることが予想される。

3．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害時の支援	利用者のサービス利用が多岐にわたることもあり、利用者や事業所の相関図を作成していきます。	利用者の計画相談を活用し、利用しているサービスや事業所の把握に結び付ける情報方取集を行っていく。

4．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
楽しい職場つくり	職員が、企画・立案・実行することで自己達成感を感じられ、仕事に対する熱意を持てるようにしていきます。	サイボウズにて「利用相談センターでございます」を上半期2回と下半期2回の年4 回発信し、部署の役割や業務内容を広く知って頂けるように努めた。利用相談センターの機能や役割を法人全体に発信することで、より責任を持って業務に取り組む姿勢へと繋がっている。今後は、事業所へ直接訪問して福祉サービスの制度や相談員としての業務の説明を行えるように検討していく。

働きやすい環境つくり	相談業務に取り組む環境改善について検討し、相談業務に必要なケース検討も行いやすい環境を整えていきます。	個人情報の観点から、机の配置を変更した。今後もケース検討が活発に行える環境を整えることと、利用者の情報管理については改善の必要がないかを探っていく必要があると感じている。

令和３年度　機能訓練センター　事業報告

【令和3年度を終了して（総括）】

令和3年度も,昨年同様にコロナ禍での訪問の困難さを抱えて開始したが、法人内のフェーズ等の変更に合わせ、訪問、対面での身体評価環境評価等が行えたことで根拠ある支援への提案が充実していた。福祉用具の活用も増加傾向にあり利用者、職員の身体的負担軽減を推進することが出来た。共栄での看取りについては事業計画に基つき、身体変化に合わせた、支援提案を実施することができた。その際に、外部業者との関係性の中で、法人、機能訓練センターの事業に賛同頂き、無償での電動ベッド、心拍等をベッド上で測定可能なセンサー、自動で体位交換が可能なマットレスのレンタルして頂き、利用者生活の質の向上に繋げる取り組みが出来た。職員についても、緊急時に駆けつける体制（臨時）や環境整備、身体介助方法を提案をし、精神的、身体的な負担軽減につながったとの声を頂いている。他の法人にはない、機能訓練センターが多くの利用者・職員にとって死の直前まで相談したり頼りにして良いことを理解して頂けたことが今年度として大きな成果だと考える。ノーリフトケアの推進については、法人外部にも活動が広がり、北海道医療大学より講師依頼、社会福祉法人光風会での福祉用具のレクチャー、身体評価の依頼があり、大きく飛躍した1年となった。次年度は多くの方に施設を利用してもらい運用の幅を広げていきたいと考えている。

【令和3年度実績】

	職員相談	利用者相談	訓練	評価	貸し出し物品
とみがおか	14	70	8	50	564
共栄	21	169	61	101	2267
就労センタージョブ	0	4	0	2	0
北広島デイセンター	7	33	2	21	369
北広島セルプ	5	9	0	2	0
グリーンパーク北ひろ	6	20	8	8	146
つなぐ	4	0	0	1	122
東部緑の苑	3	3	0	0	0
デイサービスセンターヴェール	6	6	0	5	868
本部関係	6	1	0	0	0
	72	**315**	**79**	**190**	**4336　件**

リフト検定（レクチャー含む）　23件

コラム　４７件

福祉用具修理申請関係（機能訓練センター内）　220件

外部への講習、デモ等　209件

看取りのへ介入　34件

【令和３年度事業計画４月～3月の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
『身体機能』『ノーリフトケア』『終末期ケア』を基本に各事業所との調整をしていく。	各事業所の利用者と職員が健康で生活できるように助言とサポートをする。	機能訓練専門委員会、各事業所の役職と連携し個別支援計画等とリンクし、調整を行った。
ノーリフトケア・福祉用具について理解しながら利用者と職員が支援の負担軽減に努めていく。	各事業所からの相談対応行い必要に応じた福祉用具の普及と負担軽減に努める。	コロナ禍で事業所訪問が減少傾向にあったが、要望等を聞き取り適切なデモの導入等を通じて負担軽減に努めた。外部機関への介入も多く発展した1年となった。

法人職員の身体を守り、利用者に安心なケアを提供するためノーリフトケアの導入・統一を図る。	利用者と職員の腰痛対策と事業所職員の支援の技術の統一を目指し普及させていく。	各事業所のノーリフト計画に基つき、必要時には修正をしながら実施した。
継続介入者にはリハビリテーション計画書を立案し推進する。また相談対応を行い、職員と考えながら職員育成に繋げていく。	各事業所と連携し機能評価、運動の提案、シーティング、ポジショニングを計画している。	コロナ禍で対応困難であったため、相談対応に切り替え対応した。
幼少期から終末期に至るまでにライフサイクルに合わせた支援提案を推進していく。	現状評価から根拠ある支援を提案していく。	今年度は看取りへの介入もあり、状況に合わせた支援の提案や環境整備等を実施した。ライフサイクル、身体状況を踏まえた対応を実施。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
新規拠点の機能訓練センターにおいて利用者と地域開放に向けての準備。	企業との連携と地域住民に向けた出前講座の実施。プレイルームに向けた準備。	障害特性、年齢、安全性、利便性を考え、構造、物品の選定を行い、満足間のある施設となっている。
日本ノーリフト協会北海道事務局設立準備。	日本ノーリフト協会との連携と協会会員事務所との連携（北海道全域）	日本ノーリフト協会北海道支部設立。機能訓練センターが事務局となり、法人内のノーリフト関係を統括していく。
ノーリフトケアコーデイネーターベーシック養成準備	日本ノーリフト協会と法人の連携	養成講座の準備としてベーシック・アドバンス資格の取得を終えている。
ノーリフトケア普及事業	月1回のノーリフトケアコラムの発信。各事業所職員へのリフト検定資格の普及。法人職員への腰痛予防対策の発信。	コラムの発信を月1度以上発信中。リフト検定はレクチャーも含め実施している。（合格者９名）大学への講義、法人外への講習、デモの貸し出し等も増加している。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者のサービスの提供中を想定した災害訓練と災害訓練の取り組みをしていく。法人と地域の災害時において避難場所としての準備。	災害訓練の実施。地域の災害時での避難場所としての準備を進める。	災害時訓練を共栄と合同で実施している。

４．魅力あふれる法人つくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員自身での目標と事業所での目標に向かい、法人に貢献していき自身の達成感に繋げていく。	日々の業務を振り返りを行い職員の提案事項を形に出来るように具現化していく。	日々のミーティングにて提案を促し業務に反映し形にしている。
朝夕のミーティングを主体としチームとしての意見交換を積極的に進めていく。	事業所の専門性を活かした日々の細かい情報共有の実施。	朝会・夕会の中で情報共有の実施が出来ている。
職員育成	機能訓練専門委員会を中心に各事業所へのノーリフトケアの実施。ノーリフトケアコーデイネーターの資格取得。	委員会内での勉強会や役割分担やリーダーをつけ責任ある業務を行っている。コロナ禍のため資格取得についてはR4年に変更。（ベーシック資格）

とみがおか

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　とみがおか　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

・稼働率は安定している状況。
～コロナウイルスによる帰省自粛、一方で長期入院利用者は変わらず。
・感染症と向き合いながら生活していく上でマスク着用が不可欠となっている。支援を通じて
現在は9割の利用者がマスクの着用が出来るようになっている。
・事業計画に関しては概ね計画通りに運営出来ている。感染症状況により、内容が異なる項目も
あったが、現在の感染症状況に見合った代用の対応が行えている。

【令和３年度稼働状況】

１．とみがおか　（施設入所支援）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	80	30	2,400	2,369	98.7%	入院者1名
5	80	31	2,480	2,447	98.7%	入院者１名
6	80	30	2,400	2,370	98.8%	入院者1名
7	80	31	2,480	2,449	98.8%	入院者1名
8	80	31	2,480	2,449	98.8%	入院者1名
9	80	30	2,400	2,350	97.9%	入院者1名
10	80	31	2,480	2,454	99.0%	入院者1名
11	80	30	2,400	2,382	99.3%	入院者1名
12	80	31	2,480	2,450	98.8%	入院者1名
1	80	31	2,480	2,433	98.1%	入院者1名
2	80	28	2,240	2,240	100.0%	入院者1名
3	80	31	2,480	2,472	99.7%	入院者1名
合計			29,200	28,865	98.9%	入院者1名

２．とみがおか　（生活介護）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	80	22	1,760	1,735	98.6%	入院者１名
5	80	23	1,840	1,817	98.8%	入院者１名
6	80	22	1,760	1,738	98.8%	入院者１名
7	80	23	1,840	1,816	98.7%	入院者１名
8	80	23	1,840	1,817	98.8%	入院者１名
9	80	22	1,760	1,724	98.0%	入院者１名
10	80	23	1,840	1,807	98.2%	入院者１名
11	80	22	1,760	1,736	98.6%	入院者１名
12	80	23	1,840	1,823	99.1%	入院者１名
1	80	23	1,840	1,834	99.7%	入院者１名
2	80	20	1,600	1,600	100.0%	入院者１名
3	80	23	1,840	1,833	99.6%	入院者１名
合計			21,520	21,280	98.9%	入院者１名

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
権利擁護	職員育成 実践報告 身体拘束適正化に向けた支援 資源の活用	・自己選択に向けた支援の可視化 ～婦人科検診における自己決定 ～コロナ禍でも出来る自己決定 ・医療行為による身体拘束の改善 ～余暇活動の応用 ～心の準備の支援
利用者の人生のサポート	ノーリフトケア推進	・福祉機器（歩行器）の活用 ～個々の利用者に合わせた選択肢の拡大
ライフスタイルの追求	地域移行支援 意思形成支援	・地域移行会議 ～居住系事業所、利用相談センターとの情報共有 ・グループホームの生活を想定した疑似体験【感染症流行の為、事業所内にて実施】 ・新しい経験、体験から利用者の意思の形成を行う
余暇支援	パートイベント企画 全体行事	・感染症により、内容の変更はあるが、資源や職員の発想を活かした行事の立案。 ～新たな楽しみの構築（テイクアウト、デリバリーサービス）
社会参加を目的とした生活介護プログラム	畑作業 公園管理 創作活動	・活動の成果（創作、野菜）を通じて社会（他事業所）との交流。 ・公園管理活動（除雪、冬囲い）
栄養ケア	ICFを用いた支援	・支援員、看護師、栄養士によるチーム支援 ～疾病との付き合い方と意思決定
食事支援	多職種による栄養ケア （摂食嚥下） 豊かな食事にむけて	・機能訓練センターとのモニタリング ・就労センタージョブと協力し、誕生日ケーキプレゼント

医療との連携	医療ケアの構築 看取り援助の理解	・訪問診療の活用 ・医療行為、治療方法の調整 ～事業所での採血、点滴治療 利用者の意思決定の伝達 ・看取り実践報告
チーム形成	しまニチュードの実践 女性活躍推進委員会の実践	・心理的安全性の波及、実践
健康管理	リスク委員会 排泄ケア委員会	・薬による副作用を考慮し、睡眠、 排泄にも通ずる支援の構築

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域との連携	農福連携 インターンシップ受け入れ	・施設外就労実施（佐藤農園） ・インターン受け入れ継続中
行政との連携	市役所との情報交換	・選挙に向けての情報交換
地域資源の活用	出張販売・理容等の依頼	・おかしのたにぽん、理容のディス カウント協力のもとコロナ禍における 社会との連携

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
防災	BCM計画に基づいた運営	・備蓄等の確認

４．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員育成	事業所内研修	・７月～虐待防止研修 ・7月～感染症委員会 ・9月～意思決定支援研修 ・10月～健康リスク研修
衛生管理	OJTの実施	・6月～新人職員面談 ・7月～人事考課面談 ・8月～人事考課面談 ・9月～新人職員面談 ・12月～人事考課面談 ・1月～人事考課面談 ・3月～職員面談
支援の専門性を高める	強度行動障がい従業者養成研修	・今年度終了者～５名

５．その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
よろこびの追求	実践報告集作成	・意思決定支援委員会、 権利擁護委員会にて 実践報告集作成。

共　　栄

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　共栄　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

事業計画の柱である『ノーリフトケア』及び『看取り援助の実践』においては、年間を通し
実施。具体的には、職場内へ宣言書を掲げ管理者と現場間において『職場環境作り』と『利用者
個々へ合った福祉用具の提供』をする事で利用者と職員の相互に負担のない支援を目指してきた。
利用者の身体介護が増えている共栄としては労災件数は、２件の実績となっている。
共栄の看取り援助として女性1名の利用者を本人の希望通りに看取る事が出来ている。
尚、下記の5.その他の項目にて事故の発生状況及び行政の内部監査報告等を載せている。

【令和３年度稼働状況】

１．共栄（施設入所）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	77	30	2,310	2,336	101.1%	
5	77	31	2,387	2,406	100.8%	
6	77	30	2,310	2,359	102.1%	
7	77	31	2,387	2,416	101.2%	
8	77	31	2,387	2,418	101.3%	
9	77	30	2,310	2,322	100.5%	
10	77	31	2,387	2,399	100.5%	
11	77	30	2,310	2,331	100.9%	
12	77	31	2,387	2,410	101.0%	
1	77	31	2,387	2,387	100.0%	
2	77	28	2,156	2,163	100.3%	
3	77	31	2,387	2,379	99.7%	
合計			28,105	28,326	100.8%	

２．共栄（生活介護）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	77	22	1,694	1,691	99.8%	
5	77	23	1,771	1,782	100.6%	
6	77	22	1,694	1,737	102.5%	
7	77	23	1,771	1,790	101.1%	
8	77	23	1,771	1,778	100.4%	
9	77	22	1,694	1,687	99.6%	
10	77	23	1,771	1,786	100.8%	
11	77	22	1,694	1,710	100.9%	
12	77	23	1,771	1,764	99.6%	
1	77	23	1,771	1,756	99.2%	
2	77	20	1,540	1,524	99.0%	
3	77	23	1,771	1,764	99.6%	
合計			20,713	20,769	100.3%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
権利擁護（根拠のある支援の定着）	意思決定支援及び、不適切な支援を起こさない為の事業所内における研修等を実施した。	事業所内の権利擁護委員会を中心に管理者を始め利用者の思いの汲み取りを継続してきた。また、日々の聞き取りを継続しながら4年度の事業計画において権利擁護プロジェクトを立ち上げ、日々の支援を検証していく。
排泄ケア	おまかせうんチームとの連携を実施し、利用者個々に合った排泄ケアを支援し実施した。	法人の排泄ケア（おまかせうんチーム）を基本として年間の利用者の下剤の使用等を減らしながら排泄に関してのリズムや量などをの調節を看護ステーションと連携を図りながら自然の排泄を追求し取り組んだ。
ノーリフトケアの実践	事業所にノーリフトケア宣言を掲げ、利用者と職員の相互に負担のない介護と腰痛予防の実践及び職場環境作りを実践した。	ノーリフトケアを通じて職員の腰痛予防を実施した。具体的には支援に入る前において『これだけ体操』の実施と月1回のノーリフト会議にて利用者と職員の支援方法を洗い出しながら全職員に腰痛予防としてのベルトの配布と必要な利用者へは、福祉用具の対応と準備を積極的に実施してきた。
看取り援助ケア	看取り援助推進室との情報共有及び協力体制の実施。保護者への看取り援助に対する説明と意思確認を実施した。	看取り援助推進室と連携をして事業所内の高齢期プロジェクトが中心となり、2月に障がい分野として初の看取り援助を実施した。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
ボランティアと実習生の受け入れ	積極的な受け入れにより社会資源としての理解促進を図る。	新型コロナウイルスにより感染症対策の為、外部からのボランティアを受け入れる実績はなかったが、市内の大学との連携により事業者へインターンシップ生という形で現場へ10名受け入れる事が出来た。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害、防犯、感染症への対応	感染症対応の職員周知及び、防犯、防災に向けた情報発信を実施し、利用者と職員の安全確保に努める。	上半期は、防犯対策に不十分な点があり職員のロッカー以外にも現場内に鍵付きの貴重品入れを用意して職場環境の整備に努めた。

４．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
働きやすい職場環境の整備	入職から数年経過した職員も安心して働けるように面談を通して、聞き取りを行いながら情報の共有を実施した。また、異動職員に対してもパートナー制を実施して孤立化させない対応と業務へのスムーズな取り組みが出来るように職場環境の整備を実施した。	具体的には再度、職員に対し業務の明確化と役割を再確認してもらい、プロジェクトでの自らの提案と実施に達成感を感じてもらいながら職場環境を変えていく事に取り組んでいる。

４．その他

①事故の発生状況	6件	4月→1件（裂傷）　5月→1件（裂傷） 6月→1件（裂傷）　9月→2件（薬・骨折） 11月→1件（裂傷）
②虐待・身体拘束の状況	0件	福祉用具を使用している利用者と保護者から同意書もらい、事業所内での月1回福祉用具の使用状況記録を管理してモニタリングをしている。
③感染症の集団発生状況	1件	1月にて男性パートで10名のノロウイルス感染症を発症し、パート閉鎖をした。
④車両事故の発生状況	0件	今後も継続し啓発に努める。
⑤労働災害の状況	2 件	①利用者支援にて腕を捻られる。 ②利用者の身体介助にて両腕の肉離れ
⑥内部監査の報告	10月25日10時30分に石狩振興局の実地指導を実施済	
⑦行政監査の結果	事業所サービスに対して、石狩振興局より文書にて適正に執行との返答あり。	

就労センタージョブ

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　就労センタージョブ　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

・11月に無事移転を終えている。市内限定ではあるが、送迎を開始しており、８割の方が送迎を利用している。
・4月のレストラングランドオープンに向けて、製造部門の試作を行ないながら、法人職員向けのプレオープンを実施し、準備を進めることができた。
・材料費含めて物価の上昇に伴い、弁当価格、GHの食事価格を見直し、４月より値上げを行う。パンの価格変更も行う予定である。
・9月に事業所の定員の変更を実施。40名定員を、60名に変更して利用者の確保を行う。令和4年度に7名の利用者の確保を行うことができている。

【令和３年度稼働状況】

１．就労センタージョブ（就労継続B型）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	34	22	748	958	128.1%	
5	34	23	782	836	106.9%	
6	34	22	748	1,001	133.8%	
7	34	23	782	964	123.3%	
8	34	23	782	825	105.5%	
9	54	22	1,188	959	80.7%	
10	54	23	1,242	991	79.8%	
11	54	22	1,188	929	78.2%	
12	54	23	1,242	976	78.6%	
1	54	23	1,242	899	72.4%	
2	54	26	1,404	770	54.8%	
3	54	23	1,242	981	79.0%	
合計			12,590	11,089	88.1%	

２．就労センタージョブ（就労移行支援）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	6	22	132	64	48.5%	
5	6	23	138	68	49.3%	
6	6	22	132	44	33.3%	
7	6	23	138	45	32.6%	
8	6	23	138	38	27.5%	
9	6	22	132	44	33.3%	
10	6	23	138	45	32.6%	
11	6	22	132	44	33.3%	
12	6	23	138	47	34.1%	
1	6	23	138	47	34.1%	
2	6	26	156	38	24.4%	
3	6	23	138	44	31.9%	
合計			1,650	568	34.4%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
権利擁護への高い意識レベルを持つ取り組み	・権利擁護を全ての支援の基本に捉えるチームづくりをする。その実践の振り返りを通して実践力の向上を図ります。 ・権利擁護ミーティングを月1回開き不適切支援への気づきの向上を図ります。	・権利擁護研修に職員参加を行い、権利擁護会議の時間に周知を行なっている。 ・不適切な支援につながりかねない事象などをユニット内で話し合い、権利擁護ミーティングで周知している。
しまニチュードの実践	しまニチュードの「見る」「話す」「触れる」を用い、優しさを伝える支援を実践します。職員同士、「思いやり」を持つコミュニケ ーションを進めます。	・作業の合間を見て、利用者との面談を実施。作業しながらの会話ではなく、環境を変えて面談を行うことにより、「見る」「話す」を行いながら、本人の思いを傾聴することを継続していく。
企業等への就職	一般就労に向けた講習プログラムを提 供します。 法人の就労支援マニュアルの活用 *画一的なプログラムとセレクト講習 を組み合わせ、有期限の中で成果を出せる仕組みをつくります。 今までの雇用先とのつながりを大切に していきながら、職場への定期訪問な ど定着に積極的に取り組みます。	・雇用先への訪問・雇用契約の継続等の手続きなど、企業と確認を行いながら訪問等を実施。今後も企業や相談支援事業所等と連携を継続していく。
新規利用者の獲得	利用相談センターと連携し高等養護学 校や就労相談事業所にむけて、移転後 の案内やPR活動を行います。また、私的実習や体験会の機会を増やし、利用に繋げていきます。	・7名の新規利用者を各所の協力をいただき、利用につながっている。私的実習や学校実習生を積極的に受け入れ、今後の利用につなげていく。
安定した稼働率の確保	利用者が仕事に誇りをもって休まず来 られるように、しまニチュードの考え方 である「見る・触れる・話す」を実践 していきます。全体の平均稼働率115%を目指します。利用者のケースに職員全体で向き合 い、根拠ある実践ができる職員集団を 目指します。そのためにも、関係機関や専門職との連携体制を強化します。	9月より、定員を60名に変更している。その後も、利用者はほぼ休むことなく通所できているが、12月・1月の雪害での公共交通機関の運休に伴い、市外の利用者が通所してこれず人数が減少している。 利用者のケースについて、部門ごと把握でとどまってしまい、全体職員での検討に至らなかった。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域とのつながり	市内農家からの食材確保のため連携を強化し、また必要に応じて契約することで地産地消を推進していきます。	・市内の農家より購入させていただき、弁当の食材に使用している。食材の契約は行わず、食材に使用できるものを都度購入している。
	ボールパークへの販売	・パンの販売を実施。認知度も高まり、固定のお客様が増えている。次年度も依頼があり、継続していく。
	農福連携の稼働日数の向上	竹内農園以外にも、中村農園との契約を行い、竹内農園終了後も作業日数を伸ばすことができた。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
防災対応の準備	法人のＢＣＭに基づき、マニュアルの整備と年2回計画的な防災訓練を実施します。	・地震から火災を想定した防災訓練を２回実施済。次年度も継続していく。
備蓄品の準備と管理	事業所内の災害用備蓄品を準備しま す。新型コロナウイルスをはじめとす る、流行性感染症への予防対策、初動を迅速に進めるため、備品等の確認を定期的に行います。	・災害備蓄の購入には至っていません。移転に伴い、非常用発電機が導入され、停電時のプレハブ冷凍庫の保存が可能となる。

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員の知識向上	目標管理シート等の面談を通して、 自己研鑽に努めている項目を確認して、職員の研修派遣できる機会を増やします。	研修派遣を実施している。研修後職員会議の場で報告を行い、他職員に周知している。
有給休暇の取得	働きやすい職場である為に、リフ レッシュ休暇以外でも有給休暇を 取得できるように80%以上の取 得を目指します。	有給取得率は、86％で、５日以上の日数を取得できている。今後も継続していく。
ノーリフトケアの推進	事業所内のノーリフトケア計画を作成します。作業環境面の確認を行い、機能訓練センターと連携を図り、腰痛予防に努めていきます。また、新規建物内の作業環境についても安全に配慮された、身体にやさしい環境を作り上げます	・数名ではあるが、機能訓練センターに協力を頂き利用者さんの階段昇降の方法等アドバイスを頂いている。腰痛予防体操を利用者と一緒に実施。今後も継続していく。

楽しい職場づくり	新規事業に向けて意見交換を行い、 職員の提案をできる限り具現化で きるように職員全員でサポートし ていきます。	・レストランのオープンや、新規事業（生活介護）の準備、全利用者対象にした送迎体制を含めて、部署間を超えての意見交換を実施。今後も職員の意見を具現化できるように継続していく。

北広島デイセンター

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　北広島デイセンター　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

・新規事業所開設に向けた準備として、3部門編成で展開してきた。準備室が設立されてからは、デイセンター本体と北広島コラボ（R4年度新規事業所）で各支援課長を中心に役割分担し展開する事で令和4年度を見越して準備を進めることができた。（以下、デイセンターをDCと記す）
・新型コロナウイルス感染拡大防止による事業停止（5月…いんくる5日間、11月…DCとチアフル3日間、1月…DCとチアフル3日間、2月…DC一部5日間）と再開後も濃厚接触者の健康観察期間での欠席と感染予防の欠席により稼働率は113.8％と低下し、目標の平均稼働率119％を下回った。
・コロナ陽性者が判明した際の対応は、法人内の危機管理部、看護師とも連携し事業所や活動室の部分閉鎖、PCR検査等の対応により、令和2年度のような大きなクラスター（利用者33名と職員16名の陽性者、事業停止3週間）までには至らずに事業を再開できた。
・コロナ禍での短期入所も利用相談センターと受け入れ先の事業所（グリーンパーク北ひろ、共栄）と調整し、利用者状況の引継ぎや必要に応じてDC職員が遅番、早番対応を行なう事で、GHでの受け入れが可能となり、緊急性のある4名の利用者の短期入所に応えることができた。
・利用者家族がコロナ陽性となった際、相談事業所と北広島市役所とも連携し、支援体制を整えることで家族を含め本人の服薬や食事などの生活支援ができた。
・利用者入退所では5月に共栄に1名入所、10月にとみがおかに1名入所。5月、6月、1月に他法人の入所施設へのサービス変更で退所者3名で年間退所利用者5名となった。
・4月に1名と年度途中（8月、9月、1月）で3名が利用開始し、年間新規入所利用者４名となった。
・10月14日に職員が利用者に対しての暴言による事象発生。北広島市へ報告し、関係者への聞き取りで、心理的虐待と判断される。現在、事業所の対応として、職員がその日の支援を自他共に振り返るポジメモや事業所内の権利擁護や障害特性の勉強会、管理職との定期的な面談などを実施し、再発防止に努めている。また、上記の件で対象となったご家族からの苦情・要望を法人の苦情解決第三者委員会で報告し、見守りカメラの設置や利用者へのアンケートについて進めている。

【令和３年度稼働状況】

北広島デイセンター（生活介護）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（％）	備考
4	60	22	1,320	1,577	119.5%	
5	60	23	1,380	1,524	110.4%	いんくる事業停止（5/10～14） 2名退所
6	60	22	1,320	1,577	119.5%	1名退所
7	60	23	1,380	1,615	117.0%	
8	60	23	1,380	1,564	113.3%	1名入所
9	60	22	1,320	1,553	117.7%	1名入所
10	60	23	1,380	1,608	116.5%	1名退所
11	60	22	1,320	1,484	112.4%	
12	60	23	1,380	1,635	118.5%	1名入所
1	60	23	1,380	1,557	112.8%	DC本体、チアフル事業停止（1/14～17） 1名退所
2	60	20	1,200	1,084	90.3%	DC本体一部活動室閉鎖（2/10～17）
3	60	23	1,380	1,594	115.5%	
合計			16,140	18,372	113.8%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

DC本体

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
個々職員の専門的な知識・技術の向上と、その実践での評価・検討を繰り返し、より良い支援を追求する体制の構築を図る。	計画的な外部研修（WEB研修）への派遣と研修後には、会議等の場で事業所内へフィードバックする時間を設ける。 ・行動援護従事者研修…年間3名 （重度障害者支援加算算定要件） 支援の課題は、その日のうちに改善策を決め、夕会で周知する。日頃から端的に議論し決定する訓練を行う。	①6/18…TEACCH研修（1名） 6/17,24…おがるアドバンス研修（1名） 9/9…サビ管更新研修（1名） 9/24…サビ管更新研修（1名） 10/9,10…実習指導者講習会（1名） 10/12…障がい者虐待防止研修会（1名） 12/11…社会福祉士実習指導者研修（2名） 障がい者虐待防止研修受講者による報告会の実施 ⇒今後も職員会議内での報告を継続していく。 ②行動援護従事者研修 ・6/21～24…1名 ・12/8,9,22,23…1名 事業所全体では4名の受講ができた。 ⇒職員の異動に伴い、来年度は新たに2名以上を予定。 ③気付きメモの積極的な活用と朝夕会やサイボウズでの発信による統一支援の周知体制が図れた。また、活動室毎での利用者ケースは、都度担当・活動室職員・役職者等で検討し実践する風土体制が整ってきた。 ⇒利用者送迎後からのケース会議となる為、対象職員の出勤時間を遅らせる等の工夫を行っていく。
事業所内各委員会による事業所内の支援実践の向上と支援の標準化を確立する。	職員は事業所内委員会に所属し、各委員会での活動を通し、個人の学習やチームでの情報共有を経て、会議や朝会、サイボウズで、事業所全体へ波及し、実践と評価を繰り返し、支援の標準化を図る。	事業所内の権利擁護委員会では、毎月の会議で支援目標の設定、評価により職員の支援意識向上を図ってきたが、10月に虐待事象が発生し、事業所の報告・周知体制を整備し、管理者面談やポジメモによる職員の思いを吸い上げる形を取っている。 ⇒令和4年度は取り組み内容を事業所内委員会とも検討し、事業所内研修を増やし、支援の標準化、支援力向上に力を入れる。 リスク委員会ではサイボウズ内で日常のKYTトレーニングを実施した。職員のリスクに対する意識付けに繋がり、気づきメモを上げる風土が作れた。 ⇒令和4年度も継続し、事業所内研修などで分析力の向上を図っていく。

館内の環境美化の意識向上と徹底。	事業所内に感染症対策委員会を設置し、清掃マニュアルの整備と周知徹底を行う。 日頃から掲示物による注意喚起や互いに声に出し、整理整頓の意識を高める。	事業所内で感染症対策委員会が設定できず、法人内委員による発信でとどまってしまった。感染症に対しては、事業所内の対策を周知させて事業運営を行い、5月、11月、1月、2月に新型コロナウイルス感染拡大防止の為、事業所または活動室の一部を停止する事があったが、3～5日の閉鎖で抑えることができた。 ⇒令和4年度は法人内施設入所看護ステーションや危機管理部とも連携し、感染防止に取り組む。
安定した稼働率の確保を目指す。（60名定員による平均稼働率119％）	事業所全体の平均稼働率119％を部門毎で意識化できるように各部門の実現可能な定員数を設定し目標とする。 ・ＤＣ本体…部門定員36名 ・チアフル…部門定員 5名 ・いんくる…部門定員19名 毎月の部門会議で前月の稼働率を部門毎で確認し、職員の意識化を図る。 欠席した利用者へは担当から状況確認の連絡を行い、長期欠席を繋げない。 体調不良での欠席時には症状を確認し、感染症による感染拡大が予想される場合には、自宅静養をお願いする。 利用者、保護者に安心して利用してもらえるように月一回の通信の発行や送迎時の丁寧な引継ぎを意識し、事業所状況や取り組みを伝えていく。	新型コロナウイルスの感染拡大防止で事業所または一部活動室の閉鎖により、稼働が下がった月があり、目標の平均稼働率を下回った。 退所利用者が5名いたが、年度途中で新規利用者3名の獲得や他事業所と併用している利用者が感染予防の為、一定期間の当事業所だけの利用があり、大幅な稼働率低下には至らなかった。 欠席された利用者には夕方に様子確認の電話を行い、長期欠席に繋げないよう丁寧な支援を心掛けてきた。 ⇒令和4年度も引き続き、ご家族との連絡を丁寧に行い、信頼される事業所を目指す。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
関係機関との連携の強化を図る。	困難ケースを支援する上で、関係機関との情報共有や検討を積極的に行い、必要に応じて相談事業所に、はたらきかけてケース会議を実施する。 セルフプランの場合でも事業所発信で他機関との情報共有や相談を実施していく。また、ケースによっては相談事業所とのつなぎを行う。	9月に利用者の同居家族で新型コロナウイルス陽性になったケースを相談事業所みらいと市役所福祉課と連携し、利用者の服薬支援や食事の配送サービス等の生活支援もフォローする事ができた。 ⇒今後も関係機関との連携を意識し、職員のソーシャルワーク的な支援体制の理解を図る。
地域福祉、地域貢献活動を意識した日中活動の展開。	日中活動（体力活動・軽作業活動・芸術活動）で、地域福祉や地域貢献を意識した取り組みを行う。 ・体力活動…地域クリーン活動 ・軽作業活動…リサイクル作業の拡大 ・芸術活動…交通安全などのポスターの作成	日中活動での地域参加は不足していたが、個別支援計画で市内の店舗に買い物へ行ったりなど実践できた。 ⇒令和4年度は、コロナ禍でも実践できる工夫をして地域参加を取り入れた日中活動を展開していく。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害時避難計画の周知徹底を図る。	事業所内でBCM委員会組織を設定し、災害時の避難計画を訓練により見直し、事業所職員に周知する。 ・地震避難訓練…年間1回 ・水害避難訓練…年間1回 ・火災避難訓練…年間1回	避難訓練の実施だけでは、事業所内のBCPを職員へ周知するまでには至らなかった。 ⇒事業所内に災害対策委員会を設置し、避難訓練計画及び事業所内研修、安否確認システムの定期的な活用により、職員の防災意識向上を図る。
災害時の地域との連携づくり。	事業所から地域の防災研修に参加する。 ふれあいステーションほっととの合同避難訓練を実施する。	感染防止の観点から東部防災教室の参加は出来なかった。 ふれあいステーションほっととの合同訓練までは実施できなかった。 ⇒感染予防は継続しながら、東部防災教室等の地域の研修は現場職員も含め計画的に参加していく。
防災備品の準備と管理。	事業所内BCM委員会が中心に防災備品の準備と定期的な管理を行う。	事業所内のBCM委員会を設置できず、法人内委員による在庫確認で終わってしまっていた。 ⇒令和4年度は、事業所内の災害対策委員を設置し、備蓄品及び在庫管理の徹底と事業所内研修等による職員への注意喚起を図る。
感染症対策・予防のマニュアル整備と職員への周知徹底。	事業所内の感染症対策委員会が中心となり、法人の感染症対策委員会と感染症BCPに基づき、事業所内研修や訓練を実践し、事業所のマニュアルの検討、及び改正を行い、職員の意識向上と対策の周知徹底を図る。 ①事業所内研修、訓練 ②感染症対策備品管理 ③朝会、会議での注意喚起と情報発信 ④事業所感染症マニュアルの見直し	事業所内の法人感染症委員、ＢCM委員による必要時の都度発信だった為、トップダウンの形で終わってしまい、マニュアル整備まで職員への周知には至らなかった。 ⇒事業所内に感染症対策委員会と災害対策委員会を設置したことで、両委員会のマニュアルの整備を実行していく。

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
有休休暇の計画的な取得やノー残業デーの継続。	管理者は職員の年間取得有休休暇を管理し年間5日間を必ず取得する。 上半期終了後、リフレッシュ休暇、及び有休休暇取得に関して、取得できていない職員へ計画的な取得を促していく。 毎月給料日をノー残業デーとし、自分や家族の時間も大切にする。	有休休暇の平均取得率は80%を超えた。 事業所独自のノー残業デーは、職員家族にも周知され、普段残業が多い役職者などは意識してすぐ帰ることが定着してきた。 ⇒個別支援計画作成時や行事、年度末などの忙しい時期にこそ、ノー残業デーを職員の休養となるよう計画的な業務遂行を促していく。

自分の考えを話し易く、相手の考えを肯定し聴く風土をつくる。	事業所内の業務は小グループでの担当制とし、4～5名程度のグループ組織の中で、定期的な話し合いの場を作り、同じ目的を持つチーム内での自分の役割機能を知り、業務上のコミュニケーション能力を身に着ける。 現場間で相談しながら解決していくことを繰り返し、職員一人一人が等しく判断できる力をつける。	各活動室や事業所内委員会等での小グループでの会議は、年代に関係なく自分の意見を話せる風土になってきたが、日常支援の中では言い難いこと（支援上の指摘など）は、相手の反応を気にして言えずにモヤモヤしている職員もいた。 ⇒利用者の権利擁護の視点での指摘は、現在はポジメモを活用し、モヤモヤで終わらないように役職者、管理職が話を行い解決へ繋げている。今後は現場間でも正しく議論できるような風土作りを図る為、支援上で相手に改善を求める事と、良いところは賞賛し伝える事を役職者間でもお手本になるよう実践していく。
社会福祉士、介護、保育実習生が充実した実習と感じてもらえるような環境をつくる。また、ボランティアやインターンシップ制度の確立を図る。	感染症対策を徹底した上で、学校と連携しながら受け入れていく。 事業所内に実習生担当を配置して、期間中の指導や相談を担う。 保育実習でも他事業所には無いような個別の支援や企画を実践してもらい成功体験として振り返ることで、障がい分野への興味関心を図る。 ボランティアやインターンシップに関しても法人内ボランティア委員会と連携し、事業所の体制を整備する。	実習 ・8/16～20… 北海道医療大学3年生　1名（社福） ・8/17～28… 国際短大　2名（保育） ・9/27～10/7… 北翔短大こども学科　2名（保育） ・10/12～11/12… 道都星槎大学3年生　1名（社福） ・10/25～11/6… 北翔短大　1名（保育） ・11/25～12/3… 北翔短大　2名（保育） ・2/14～18… 北星学園2年生　1名（社福リモート） 実習場所の活動室を固定するなどの工夫を行い、事業所内の担当者が中心となり実習計画を作成し、相談援助実習（基礎実習含む）3名、保育実習　7名の実習生を受け入れて指導した。実習生には必要な指導内容だけでなく、有意義に実習ができるように担当職員以外も積極的に声を掛けてきたこともあり、保育実習生で障がい者施設に興味を持って頂き、法人の採用試験を受けた人もいた。（北広島デイセンターで採用） ⇒今後も学生に法人の取り組みに興味を持ち、働きたいと思ってもらえるようなワクワクする実習を実践していく。
「わくわくする楽しい職場」づくりを追求する。	職員一人一人の価値観を尊重し、他職員の努力を賞賛し、感謝できる職員集団を目指す為、職員の頑張りを管理者から発信することを増やす。 年度開始時に支援の一本柱と自らの特技を設定し、業務上でその特技を活かせる環境を作る。	年度開始時に職員の特技を支援の一本柱と共に掲示している。行事では職員の特技（歌や創作、パソコン動画編集など）を活かし、業務を行なう事で、得意なことを周りから頼られる仕事の仕方になり、自然と職員同士で賞賛される機会が増えた。担当した職員もやる気を持って取り組んでいる姿が見られた。 ⇒令和4年度も継続し、特に1年目の職員は得意なことを活かせる仕事を任せていく。

４．その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
インシデント レポート報告	インシデントレポート作成において、事業所内リスク委員会での原因分析と対応の周知。	○インシデントレポート 4月…4件、5月…3件、7月…1件、9月…4件、10月…2件、12月…2件、1月…1件、2月…3件、3月…2件 計…22件 ○事故報告書 7月…1件（落薬） 9月…1件（服薬忘れ） 10月…1件（不適切支援）

チアフル

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者の「しあわせ」とは何か、常に考え行動する職員集団にする。	・各々の利用者の生きてきた物語を大切にする為、個別支援計画の成育歴既往歴、お薬情報、アセスメントシートなど常に確認し更新する。 ・新しい事への取り組みによる経験の場、意思形成、意思表出、意思決定を大切なプロセスとして毎日を支援する為に個別の特性に応じた活動場面を提供する。	新鮮な経験が積めるようにフラワーアレンジメントやアクセサリー作り、販売などを行い意思形成の土台を作るなど家庭ではできないことの内容での取り組みを行えた。
統一したチーム支援を提供する。	・支援の課題は、その場、その日のうちに改善策を話し合い周知させて、早急に対応する。日頃から端的に議論し決定する意識と決まったことを共有しチームでの支援が出来るように朝会・夕会での確認と業務指示に記入欄を作り見返すことが出来るようにする。	夕会、朝会と業務指示の欄を活用し確認していく事で伝達ミスなども減り統一して情報を整理することが出来た。
保護者の方に信頼される活動室にする。	・安心してご利用頂ける様に普段からの活動内容などの情報提供、提案、ご家庭からの情報収集を通し、利用者の伴奏者としての立ち位置を忘れず、ご家族にも寄り添う為に毎日の朝会夕会の引継ぎ内容を確認し送迎に臨む。 ・チアフル通信を月2回発行し日中の様子や月の予定をお知らせする。	チアフル通信の発行により日常の様子が伝わりやすかったが月の予定は見逃されることも多く書式の工夫は必要と考える。

職員の自己研鑽の場が確保され仕事にやりがいを持てるようにする。	・職員は事業所内委員会に所属し、重症心身障害者に特化した内容ばかりではなく、計画的な外部研修（WEB研修）への派遣と研修後には、会議等の場で事業所内へフィードバックする時間を設ける。 ・支援に対する根拠を持ち職員の自信と次のステップへのやる気を持つ為に必要性、方法についての根拠など調べ確認して知識とする習慣をつける。また当たり前に行う毎日の支援も必要時には夕会での確認を随時行い必要な支援か改善が必要か話し合う。	zoom等を利用しての研修には参加しやすく日中の時間に現場を抜けて参加できる機会がたびたびあった。 また支援の根拠という話題を毎日の支援の中や職員ミーティングでも沢山行なえていた。考える際の習慣化としては定着しつつある。 ・10/2…全道重症心身障害研修会（複数名） ・10/12…障がい者虐待防止研修会（1名） ・ 9/7,8,21,22…行動援護従事者研修（1名）

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
チアフル独自の入浴体系の確立	・利用者のＱＯＬ向上の為、生活を豊かにする入浴を遂行する ・今までフィットマンで行っていた水曜日の入浴サービスをチアフル独自の事業として行う。	デイセンター内では申請の関係上設置できなく実施できていない。
ボランティア・外部講師の活用	・ボランティア委員と連携し、入浴の際のドライヤー、車椅子の掃除等を行って頂けるボランティアを募集する。 ・市役所や社協に協力頂き、外部講師を呼ぶ機会を持つ。	実施できていない
養護学校実習生の受け入れを積極的に行う	・近郊の養護学校と連携し、実習生の受け入れ、見学などの対応を行う。 ・感染症時にも対応可能、また実際に利用されている方が案内役となるビデオ通話形式の見学も行う。（共栄分校）	共栄分校と連携し、ご家族の見学やQRコードを使った取り組みなどを実施し連携を深めることが出来た。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
サービス利用中を想定した災害訓練を行う。	事業所内でBCM委員会組織を設定し、災害時の避難計画を訓練により見直し、事業所職員に周知する。 ・地震避難訓練…年間1回 ・水害避難訓練…年間1回 ・火災避難訓練…年間1回	合計3回の訓練を実施した。
関りのある他法人事業所との連携を日常から行いネットワークの強化を図る。	・他サービス事業所の利用一覧の作成。 ・有事の際にも活用できる情報、ネットワークの整理をする。	コロナ禍でも連絡を取り合い連携をとる事が出来ている。一覧表の作成は実施済み

緊急時に対応できるよう定期薬などの準備確認をする。	各利用者の日中の定期薬のみではなく、1日に必要な薬の準備等保護者と確認し通所バックに用意していただく。	通所バックに準備頂けた。又は預からせて頂けた。

3．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
計画的な有給取得	・翌月の勤務表作成時に管理者から事前の有休希望を確認し、毎月15日までに取りまとめる。 ・上半期が終了し、リフレッシュ休暇、及び有給休暇を取得できていない職員へ計画的な取得を促していく。	計画的な有休取得の案内は出来た。
効率的な日常業務の整理	・通常業務での掃除や記録の時間を短縮できるよう業務の分担制や書式の変更、時間の使い方等を改善、整理をする。 ・各会議は報告ではなく、検討事項を中心とする。 ・毎月、職員の給料日及び週末をノー残業デーとする。	タイムマネジメントを意識し働きかけ改善する意識を持つ集団となることができた。
わくわくする「楽しい職場」づくり	・仕事と趣味、子育て等プライベートの両立を大事にする風潮を浸透させるため、 計画的な有休消化を進める。 ・　「タイムマネジメント」が出来ているか毎月の部門会議前に個別に確認する。 ・様々なケースに対して話し合う機会を作り利用者支援については職員みんなでの共通認識を進め支援する。 ・職員にとって「心理的安全性」が確保され、有効な意見交換が出来るよう最低1か月に1回の１on１ミーティングを実施する。 ・枠にはまらない独創的な行事などアイディアを生かした楽しい活動を計画する。	有休取得を進めることが出来た。
安心安全な労働環境	・重症心身障害者の利用者の支援にはノーリフト支援が根底にあり設備投資が必要になる。ノーリフトケア事業計画を基に利用者、職員双方に安心安全な支援を行うために必要な福祉用具の準備、購入を積極的・計画的に行う。	ノーリフトを意識し積極的に考えていく事が出来た。特に移乗介助以外の支援時の姿勢などにも着目し中腰姿勢で行わないという意識づけが出来た。
社福、介護、実習生が充実した実習と感じてもらえるような環境づくり	・大学、専門学校の社福、介護、保育実習は積極的に受けていく。 ・実習生が考えた個別の支援や企画を実践して、成功体験として振り返ることを期間中に行う事で、「この法人で働いてみたい」という気持ちになれるような実習計画を作り実践する。	実習生をチアフルにて受けることがなかったため未実施

４．その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
インシデント レポート報告	インシデントレポート作成において、事業所内での原因分析と対応の周知。	○インシデントレポート 6月…2件、9月…1件　計…3件

いんくる

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員の専門的な知識、技術の向上を図る。	計画的な外部研修（WEB研修）への派遣と研修後には、会議等の場で事業所内へフィードバックする時間を設ける。 ・行動援護従事者研修…年間1名 （重度障害者支援加算算定要件）	行動援護従事者研修は、1名取得することが出来た ・5/10～13…行動援護従事者研修（1名） ・10/12…障がい者虐待防止研修会（1名）
はたらく生活介護としての支援力の向上を図る。	他の就労事業所の見学を行い、障がい特性に合わせた工夫や作業展開方法などを学ぶ。 法人の就労支援専門委員会に職員を委員として派遣し、利用者の作業意欲、技術の向上について学ぶ。 学んだことを事業所に合わせた形として実践する。	なかなか取り組みが進まなかった。新しい作業種を模索するためのセルプや他の業者さんとの打ち合わせなどは行えた。
機能訓練センターとの連携強化。	令和４年度の新規事業所設立後のサービス提供を見越して、高齢や障がい特性による身体機能の衰えを専門職との連携で改善し、個別性の支援力が向上できる支援体制の整備を行う。	数名の利用者さんの機能訓練の取り組みを依頼するなど連携は取れた

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
除草、除雪作業の顧客満足度向上を目指す。	昨年度までの顧客リストをもとに営業活動を実施する。 依頼がない時には事業所周辺での除草や除雪の作業技術向上を目的とした練習を行う。 4～6名グループでの出張作業としていく。	個人宅の除草の依頼は少なめであったが、除雪の作業は大雪の影響もあり連日の申し込みがあった。ありがとうという言葉を頂いた場面は沢山あったが、技術の向上には至っていない。
他事業所や関係機関との連携の強化を図る。	支援上の課題については、事業所内での検討だけでなく、解決困難な場合には他事業所や他機関との連携、相談を積極的に行う。また、必要に応じてケース会議や関係者会議を積極的に実施していく。 関係する事業所や機関との情報共有を適宜行っていくことで関係性の構築を図る。	おがるとの連携や令和4年度の新規事業所開設に向けて、相談事業所との関わるケースも多く連携の強化を図ることが出来た。

蜜蝋キャンドル、缶バッチの商品認知度の向上を図る。	地域の販売イベントへの参加や法人ホームページ等のSNSを活用した宣伝を行う。 店頭で当商品を販売している提携店は、計画的に訪問し、在庫確認や商品の交換により回転させることで、「あっ、新しいものがある」「今度来た時、何があるかな」という常連客の“気になる”“楽しい”を目指す。 作業しやすい道具の購入や作業工程の工夫を模索しながら、利用者が理解しやすく携われる工程を増やす。 自分の子供が作っている商品を保護者向けに宣伝し、保護者からも商品の良さを周囲に拡散してもらう。	みつろうキャンドルは新商品の展開が出来たが、提携店舗への計画的な訪問までは行えなかった。
地域ボランティアとの連携強化	農業経験者や知識がある地域ボランティアに協力してもらい、いんくる農園のアドバイスをもらう。	実施できていない。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害時避難計画の周知徹底を図る。	災害時の避難計画を訓練により見直し、マニュアルを周知する。 ・火災避難訓練…年間1回 ・地震避難訓練…年間1回 訓練は北広島セルプと合同で実施する	合計２回の訓練実施は出来た。

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
有休休暇の計画的な取得やノー残業デーの継続。	職員は毎月15日までに翌月の有休申請を行う。管理者は職員の年間取得有休休暇を管理し年間5日間を必ず取得する。 上半期終了後、リフレッシュ休暇、及び有休休暇取得に関して、取得できていない職員へ計画的な取得を促していく。 毎月給料日をノー残業デーとし、自分や家族の時間も大切にする。	計画的な有給取得は出来た。 ノー残業デイについても意識を持つことは出来た。

作業を通じて地域との関りの機会を増やし、地域の方にも事業所のことを知ってもらう。	農家、企業、地域住民からの委託作業を請け負う際、“元気な挨拶”“礼儀やマナー”“丁寧な対応”を心掛ける。 地域住民からの委託は、電話対応マニュアルを作成し、誰が受けても丁寧に対応できるように準備する。 活動内容を定期的に法人ホームページに掲載する。 ・毎月、職員の給料日及び週末をノー残業デーとする。	外部の企業と接する際のマナーには気を付けて行くことが出来たが、ホームページなどを利用していく事は出来ていない。
社会福祉士、介護、保育実習生の実習期間を増やす。	実習生は本体だけでなく、学校と相談の上、いんくるを実習先として受ける。 本体同様に実習担当を配置し、指導と相談を丁寧に行う。 ・枠にはまらない独創的な行事などアイディアを生かした楽しい活動を計画する。	実習生をいんくるで受けることは出来ていない。
「わくわくする楽しい職場」づくりを追求する	職員の努力をお互いに声に出す。また、本体やチアフル職員へ発信する。 年度開始時に支援の一本柱と自らの特技を設定し、業務上でその特技を活かせる環境を作る。	いんくるからの発信はなかなか出来ていない。特技を生かしながら働くことの出来た場面はあった。
社福、介護、実習生が充実した実習と感じてもらえるような環境づくり	・大学、専門学校の社福、介護、保育実習は積極的に受けていく。 ・実習生が考えた個別の支援や企画を実践して、成功体験として振り返ることを期間中に行う事で、「この法人で働いてみたい」という気持ちになれるような実習計画を作り実践する。	いんくるで実習を受けることは出来ていない。

４．その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
インシデント レポート報告	インシデントレポート作成において、事業所内での原因分析と対応の周知。	○インシデントレポート 8月…1件　計…1件

北広島セルプ

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　北広島セルプ　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

利用者稼働については、5月のグループホームでのコロナ対応による利用者の欠席が強く影響し稼働が大きく落ち込んだ。また、蔓延防止措置や緊急事態宣言での社会的な行動の制限・自粛による精神的なダメージを受けた利用者が休んだことが稼働率に影響している。
作業面においては、新規作業を積極的に受け入れたことで利用者への作業提供が停止することはなかったが予算通りの収入は得られていない。製袋については、喜茂別町、蘭越町分を作製。現場での機械操作および詰折作業も確実な実績を作ることができた。

【令和３年度稼働状況】

１．北広島セルプ　：就労継続支援B型

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	60	22	1,320	1,396	105.8%	
5	60	23	1,380	1,002	72.6%	
6	60	22	1,320	1,411	106.9%	
7	60	23	1,380	1,463	106.0%	
8	60	23	1,380	1,456	105.5%	
9	60	22	1,320	1,396	105.8%	
10	60	23	1,380	1,446	104.8%	
11	60	22	1,320	1,378	104.4%	
12	60	23	1,380	1,408	102.0%	
1	60	23	1,380	1,352	98.0%	
2	60	20	1,200	1,163	96.9%	
3	60	23	1,380	1,380	100.0%	
合計			16,140	16,251	100.7%	

２．北広島セルプ・ガンバ　：就労移行

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	6	22	132	39	29.5%	
5	6	23	138	31	22.5%	
6	6	22	132	40	30.3%	
7	6	23	138	43	31.2%	
8	6	23	138	41	29.7%	
9	6	22	132	41	31.1%	
10	6	23	138	31	22.5%	
11	6	22	132	22	16.7%	
12	6	23	138	0	0.0%	
1	6	23	138	0	0.0%	
2	6	20	120	0	0.0%	
3	6	23	138	0	0.0%	
合計			1,614	288	17.8%	

３．北広島セルプ・トライ　：自立訓練（生活訓練）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	10	22	220	221	100.5%	
5	10	23	230	191	83.0%	
6	10	22	220	227	103.2%	
7	10	23	230	212	92.2%	
8	10	23	230	210	91.3%	
9	10	22	220	205	93.2%	
10	10	23	230	211	91.7%	
11	10	22	220	202	91.8%	
12	10	23	230	207	90.0%	
1	10	23	230	208	90.4%	
2	10	20	200	185	92.5%	
3	10	23	230	217	94.3%	
合計			2,690	2,496	92.8%	

４．北広島セルプ　：全体

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	76	22	1,672	1,656	99.0%	
5	76	23	1,748	1,224	70.0%	
6	76	22	1,672	1,678	100.4%	
7	76	23	1,748	1,718	98.3%	
8	76	23	1,748	1,707	97.7%	
9	76	22	1,672	1,639	98.0%	
10	76	23	1,748	1,688	96.6%	
11	76	22	1,672	1,602	95.8%	
12	76	23	1,748	1,615	92.4%	
1	76	23	1,748	1,560	89.2%	
2	76	20	1,520	1,348	88.7%	
30	76	23	1,748	1,597	91.4%	
合計			20,444	19,032	93.1%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
事業所のセールスポイントを深める	就労移行・B型・自立訓練の３サービスについての特徴的な差別化を見出すこと。	B型については、製袋をはじめ新規作業種の拡大により、特徴的な位置づけが確立してきている。自立訓練は、下半期にて活動内容の選定が確立し、次年度体制への準備を整えることができた。就労移行は対象利用者が確保できず次年度以降は廃止の決定をしている。 ①新型コロナウィルス感染症により、実習先へのアプローチを自粛していましたが、その中で実践に近い状況を創作し、事業所内で工夫を凝らし実践している。 ②作業種は大きく変わりはないものの、質量を多くすることで、責任感、達成感がより感じられるようになった。 ③市内のスポーツ行事がほぼ中止になり思うような活動参加はできませんでしたが、情報収集をしながら、次年度に繋がるよう展開した。 ④窓口は広げていたが、魅力ある事業所としての課題が残った。
サービス種別定員・新規事業の検討	次年度の稼働を想定したシミュレーションおよび構想の確定。	①定員に変更なくセールスポイントと連動させ実施できた。 ②請負での作業種を拡大したことにより能力開発に繋げられる機会を得ることができた。 ③フロアの配置転換を中心に建物の機能を活かす取り組みができている。
新規就労作業の開拓と展開	積極的な営業	協会からの募集に応募し新規作業を獲得・実施。また、製袋も新規の自治体分を作製。 ①作業開拓よりも、作業の質に拘り各業者と打ち合わせる時間が多くなった。その中で収入が前年度を大きく上回る企業も増えた。さらに展開方法の工夫で費用対効果も含め改善することができた。 ②製袋事業を見据えて今年度は各事業所への業務移管を進め、経過良好と捉えている。 ③①同様に各企業との打ち合わせを多く設け対応できたと捉えている。 ④今年度は特に動きはありませんが、製袋機の運用に対して必要に応じて訪問や出向してもらい対応している。 ⑤今年度に関しては、進展はありませんでしたが、北海道日本ハムファイターズが進めているインクルージョンボール事業への参画をしている。まだ、軌道には乗れていないが、次年度も取り組む予定である。
稼働率の維持・向上	在宅ワークの確立・実践	在宅ワークは適用せず経過中。今後も検討。 ①移行 17.8%　B型 100.7% 自立 92.8%で推移している。 ②新型コロナウィルス感染症で企画した内容はほぼ中止にしていますが、その中でも現場職員の呼びかけで、規模を縮小して数回のﾚｸﾚｰｼｮﾝを開催できた。 ③実績なし。

工賃の向上	新規作業の受け入れおよび単価の賃上げ交渉	積極的なアプローチにて経過良好。工賃向上計画の時給としての目標は3年度140円、4年度162円、5年度212円としており、総支給額から算出しているが、5年度には20,000円を達成できるよう進めていきたい。3年度実績では時給141円と推移し目標には到達している。①～④を継続しながら、製袋事業を軌道に乗せられるよう取り組んでいく。
企業等への一般就職	積極的な企業訪問と求職活動	職業センターにて本人のアセスメントを実施。未だ実績はなし。①高齢化、重度化により人材が集まらない状況が続いている。 ②滞りなく進めてきたが、就労へ移行する方は今年度はおりません。 ③2名体制で実施。
通所サービスの向上	送迎サービスの拡大、感染・防災対策の実施。	エリア別による事業所単独での運行を実施中。居住が変更した方への送迎サービス実施。①ご家庭の状況や感染症に対応した送迎実施のため変更をかけながら、送迎のサービスの継続できた。 ②感染症対策委員会と連携し、情報を共有しながら、大きな混乱もなく運営できていた。 ③感染症の影響もあり、事業所単独での研修実施にとどまった。情報共有は継続的にできていた。
施設外就労	市内の農家との連携、工賃の交渉	農家1軒、清掃1軒、食品加工補助1軒実施。農家2軒を他事業所へ紹介。 ①昨年度同様に縮小を余儀なくされたが、法人内での呼びかけにデイセンターととみがおかで後を引き継いで頂いた。 ②単価交渉を進め、ほぼ取引している企業の単価の上昇に繋がった。 ③企業とのタイアップで作業環境から改善を試みて実践に近い形で作業展開できたと感じている。
家庭との連携	連絡ノート、広報誌、臨時の便りの発行	定期的に実施中。 ①情報共有のため継続している。 ②実施できているが、工夫が必要。 ③今年度は単独での行事に留まり、参加を集うことは出来なかった。 ④リモートでの面談も活用できた。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
住みやすい町づくりのための地域との連携	地元の企業および関係機関との積極的な協同	可能な限り実施中。 ①積極的な呼びかけは出来なかったが、依頼に関しては対応できるように知恵を出し合い対応した。 ②事業所周りの環境美化には意識して取り組み、近隣住民とも交流を図り関係性は良好。 ③人、モノを貸し出しは出来る限り対応できた。 ④感染症の状況を考慮し自粛した。 ⑤企業をはじめとした、関係者には状況や事業所の持つ役割や利用者の未来なども話を織り交ぜ理解促進に繋がり、多くの作業提供ができた。 ⑥実績なし ⑦研修等の申し込みはしていたが、ほぼ中止となった。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
非常時の対応	マニュアルの整備・点検、防災訓練への参加等	下半期にて実施。 ①BCM担当者との連携により、感染対策や緊急時の見直しは常時展開で来ていた。 ②見直しを含め、実践に対応できるように会議内での告知を実施。 ③地域との確認には至らなかったため、次年度へつなげたい。
平常時の対応	可燃物の配置、各所の点検等	常時実施。 ①点検時のみの対応が見受けられるため、平時から意識できるように周知や構造化が必要。

４．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域活動	地元での活動を意識し、事業に関わらず多くの関係者と協同する機会を設ける。	商工会青年部、スポーツ推進委員、地元飲食店や企業との連絡・連携を強化し実施展開できた。 ①昨年同様に可能な限り、地域の委員会などに参加し、情報交換や交流を実施し優先購入に繋げた。また、事業所の特性などへの理解も深まった。 ②①同様 ③①同様 ④販路拡大には至らなかった。SNSなどの活用により販路拡大につなげたい。

職員育成	細かな情報提供や打ち合わせ等を通し、意識の啓発と実践を行う。	ｺﾛﾅ禍での制限はあったものの、積極的な展開を実施。 ①介護福祉士、社会福祉士の試験に挑戦し、それぞれ1名づつ合格者がでた。 ②ﾘﾓｰﾄの研修に関しては、一部の職員しか参加できなかったため、次年度は積極的に呼びかけをしたい。 ③特休や有休を駆使し、優先的に取得に向けた業務形態をとることができた。 ④参加する職員に偏りがあったため、育成の観点として、人選を行い目的や将来性を見据えて声掛けしていきたい。 ⑤今年度は研修発表まで結びつかなかったため、次年度への課題としたい。 ⑥随時責任感を持って委員会や会議に参加することを推奨していたため、会議内や朝会時に報告が増えた。 ⑦職員の動向や収支の状況を確認し、次月に改善できることは早めに対応できた。 ⑧呼びかけはするものの、継続しない状況が伺える為、工夫が必要。 ⑨部門としての設置を試みるが、各々ｺｰﾃﾞｨﾈｲﾄ不足が目立ち、中途半端な状況も垣間見えたため、見直しが必要。 ⑩少数であるため、⑩を武器に事業運営を継続したい。
職員確保	積極的なボランティアおよび実習生の受け入れ	ボランティアおよび実習生の受け入れ実績あり。 ①実習受入事業所として、実習生のプライベートにかかわる不適切な事象が生じてしまった事を重く受け止め、今後の受入の際は反省を生かせるよう展開していく。 ②事業所内では紹介に至らなかった。 ③広報誌を活用し、事業所および法人の状況をお知らせしていた。 ④思うような結果には繋がっていない。 ⑤ボランティアの受け入れは可能としていましたが、感染症の状況を見ながらの対応としていた。
有休の計画的取得	計画的な設定と働きかけが必要。	人によって偏りがある。職員減により目標達成が厳しい見通しもある。 ①計画的な有休を推奨していましたが、目標値までには届かなかった。
ノー残業デーの設定	毎週水曜日に実施。	概ね予定通り。現在も継続実施中。 ①継続した試みは出来ていたが、委員会により、対応できない職員もおりましたが個別に曜日をずらし対応してもらった。
情報の発信	体験会や見学会の実施。広報誌の発行。	体験会および見学会は未実施。今後の課題とする。 ①新型コロナウィルス感染症の影響を受けて、実施には至らなかった。その分次年度はしっかりとした感染対策を講じて実施していきたい。 ②毎月第3金曜日に合わせて発行していた（セルプ通信）。

ノーリフトケアの推進	情報の収集や各所への相談等にて環境の見直しを行う。	作業台の作製や環境の配置転換を試みながら実施している。 ①計画した通りの活動は出来ませんでした。腰痛予防を始めとして、作業に関するノーリフトケアのあり方を模索していきたい。 ②①同様 ③委員会との情報交換を多く設けて次年度につなげたい。

5．就労および事業収入の維持向上を図る取組

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
運営会議による情報の共有	主任以上での情報共有と対策の立案	概ね経過良好。 ①運営会議時に共有することができていたが、具体的な改善策や状況把握が弱かった。 ②即効性のある事象はありませんでしたが、継続的に結果が出せるように試みた。 ③現場職員への周知が弱く、欠席対応時加算の取りこぼしが生じている。

6．安定的な事業運営資金の確保

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
ロスの削減	加算の確保および経費の削減	節電等できることを実施中。 ①経理部との情報共有や状況確認を多く持つことで改善できると感じているので次年度は更なる効果を出していきたい。 ②①同様

資料１－２

グリーンパーク北ひろ

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　グリーンパーク北ひろ　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

・コロナウィルス感染症クラスター発生（5/8～28）利用者3名＋職員3名＝計6名
・インシデント、事故報告～3件（行政報告含む）
・定員変更（単身型GH移行の為）～118名（令和4年2月より）※体験利用数含む
・支援区分見直し、変更～平均支援区分3.8
・各加算見直し、変更～重度障害者支援加算（30名）、夜間支援体制加算（65名）
・新規グループホーム開設準備～図面の作成、新規受け入れ、利用者配置、必要物品関係の確認、想定、見積等

【令和３年度稼働状況】

１．グリーンパーク北ひろ

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	116	30	3,480	3,427	98.5%	
5	116	31	3,596	3,449	95.9%	
6	116	30	3,480	3,391	97.4%	
7	116	31	3,596	3,450	95.9%	
8	116	31	3,596	3,480	96.8%	
9	116	30	3,480	3,395	97.6%	
10	116	31	3,596	3,507	97.5%	
11	116	30	3,480	3,398	97.6%	
12	116	31	3,596	3,470	96.5%	
1	116	31	3,596	3,441	95.7%	
2	118	28	3,304	3,220	97.5%	
3	118	31	3,658	3,568	97.5%	
合計			42,458	41,196	97.0%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
個別支援計画	定例会議の開催、毎月のモニタリング	アセスメントによる支援根拠と目標設定の結びつき
生活支援	高齢化、重度化を想定した生活支援	関わり方と生活の実現（意思決定支援プロセス）
短期入所	短期入所、体験利用の受け入れ	緊急時ケースの受け入れ実施
医療体制	コロナウィルス感染症対応	医療との連携強化（係りつけ医の選択）、コロナワクチン接種推進
権利擁護	定例会議におけるしまニチュードの実践	不適切な支援を出し合える環境づくり、利用者さんの笑顔の取り組み
当事者活動支援	みんなの会の見直し	感染症に対する当事者活動の検討
生活講座	交通安全、身だしなみ、性講座	各ホームで開催

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域活動	町内会活動の参加	町内会一斉清掃への参加(ホーム周辺のゴミ拾い活動を実施)
実習生・インターンシップ	実習生、インターンシップ生、傾聴バイトの受け入れ	両エリア(エリア1　2名、エリア2　1名)に傾聴バイトの受け入れ
地域資源	市役所や警察署との関わり継続	各機関の連絡体制や助言等
広報誌発行	利用者と保護者へ広報誌発刊	大型連休などのGHの取り組みやGHでの過ごし方中心に発信
就労支援	各企業との電話連絡	利用者の就労状況の確認と課題等(感染対策により企業訪問未実施)

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
防災	避難訓練の実施	各ホーム年間2回（消防署の体制変更により通報訓練なし）
防災	防災備品の個人配置/確認	年1回全利用者確認
感染症	感染症PPE脱着レクチャーと救命講座の開催	定例会議での職員レクチャー（看護師より現場職員へ）

４．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
人材育成	育成計画に伴うOJTの実施	新卒及び中途職員について本人と頻度を決め実施
計画的休暇	計画的休暇の推進（ホワイトパークプロジェクト）	毎月10日までに各自希望休暇を所定ファイルに打ち込み休暇を取る

フィットマン

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　フィットマン　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

・新型コロナウイルスの感染予防を徹底しながら、利用希望に寄り添ったサービスを提供している。
法人内、法人外問わず、サービスを受けることができない方々の「受け皿」としてニーズが増加して
行動援護、日中一時支援の件数が増加している。
・5月、1月はコロナの感染拡大（いんくる，DC本体の停止等）やその予防（こちらからの利用の自粛要
請や利用者からのキャンセル）によって各種サービスの利用件数及び収入は目標より下回った。移
動支援以外のサービスにおいては5月以外の月では目標件数より上回っていた。
・新型コロナウイルス感染拡大の防止の観点から予定していた「すまいる」は実施していない。事業
計画作成段階で屋外での実施や人数制限等の感染対策を工夫することで実施を検討していたが、変
異株による感染拡大等があり、今年度の実施を見送っている。それに伴って、ボランティアの受け入れ
も実施できていない。

【令和３年度稼働状況】

１．居宅介護

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	29	1	29	54	186.2%	内行動援護38件
5	29	1	29	39	134.5%	内行動援護28件
6	29	1	29	53	182.8%	内行動援護41件
7	29	1	29	49	169.0%	内行動援護36件
8	29	1	29	56	193.1%	内行動援護42件
9	30	1	30	49	163.3%	内行動援護37件
10	29	1	29	48	165.5%	内行動援護37件
11	29	1	29	47	162.1%	内行動援護35件
12	29	1	29	46	158.6%	内行動援護31件
1	29	1	29	42	144.8%	内行動援護28件
2	29	1	29	44	151.7%	内行動援護30件
3	30	1	30	55	183.3%	内行動援護36件
合計			350	582	166.3%	内行動援護419件

２．移動支援

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	35	1	35	39	111.4%	
5	35	1	35	26	74.3%	
6	35	1	35	26	74.3%	
7	35	1	35	38	108.6%	
8	35	1	35	41	117.1%	
9	35	1	35	40	114.3%	
10	35	1	35	38	108.6%	
11	35	1	35	37	105.7%	
12	35	1	35	39	111.4%	

1	35	1	35	22	62.9%	
2	35	1	35	30	85.7%	
3	35	1	35	44	125.7%	
合計			420	420	100.0%	

３．日中一時

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	196	1	196	246	125.5%	
5	195	1	195	186	95.4%	
6	196	1	196	260	132.7%	
7	196	1	196	238	121.4%	
8	196	1	196	252	128.6%	
9	196	1	196	263	134.2%	
10	196	1	196	276	140.8%	
11	196	1	196	230	117.3%	
12	196	1	196	263	134.2%	
1	195	1	195	199	102.1%	
2	196	1	196	197	100.5%	
3	196	1	196	282	143.9%	
合計			2,350	2,892	123.1%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
法人内の通所事業所と連携、協力しながら通所事業所の営業時間外の利用ニーズをサポートし、ご本人と合わせてご家族を含めてサポートできる体制を構築します。	利用される方のお仕事から家庭までの余暇時間を大切します。お仕事の後のほっとするひと時、それぞれの楽しみ方（みんなでの会話やテレビ,個別の音楽鑑賞やゲーム）等、1人1人が希望される過ごし方をサポートします。 →日中一時支援	職員が「環境面」、「余暇グッズ」をそれぞれ担当している。「環境面」においては平時は過ごしやすい配置で、感染症が拡大している際は、所属事業所毎で過ごせるように工夫している。また、夏に備えて冷風機を部屋毎に用意しておくことで猛暑も体調不良者等を出すことなく実施できている。 「余暇グッズ」は職員の空き時間や在宅勤務時に作成している。個々の好みに合わせて作成されており、バリエーションも増えている。
	ご家族もほっと休めるひと時の為の利用を提案していきます。 →日中一時支援、移動支援、行動援護	こちらから提案することで、今では積極的に利用を希望される様になり、ご家族の負担の軽減、気持ちのリフレッシュになっており、感謝される機会が増えている。

事業活動を通して利用者の社会参加の機会をサポートします。	楽しみな外出（映画やコンサート等）、健康の為の外出（散歩やプール、体育館等）、生活に必要な外出（食料や日用品等の買い物等）を一緒に楽しみながらお手伝いします。 →移動支援、行動援護	コロナ禍の為、映画鑑賞等の要望は実施することはできていない。しかし、感染の状況に合わせて外出プランを相談することで、要望に近付けたサービスの提供ができている。
	「1人で行ける様になりたい」という希望をお手伝いします。公共交通機関の利用方法、困った時の解決方法、ヘルプコールの掛け方,掛ける時等、実施の外出時に一緒に経験することでそれぞれの方法を学び、自信につなげていきます。 →移動支援	コロナ禍の為、公共交通機関の利用はできていない。外出プランを一緒に検討し、外出中の場面（会計等）で助言しながら経験していただく。
利用者に関わる全ての関係機関と積極的に連携し、在宅での生活を継続するための一助を担います。	1人暮らしの方の「苦手な事」、「1人では出来ない事」等をお手伝いします。 →居宅介護	利用を喜ばれている。週1回だけの利用予定だった買い物支援も好評で週2の利用に変更となっている。
	1人では不安,ご家族だけでは受診が困難な時にサポートします。ケースによっては事前に計画立てて実施します。 →通院介助、行動援護	定期での利用は順調に実施できている。急遽、依頼が来たケースはDCの職員に応援に入ってもらうことで実施できている。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
“すまいる”の案内文書や実施中の様子を事業所広報紙として毎回実施後に、ご家族や関係施設・行政機関へ情報を発信し、周知を図ります。	魅力的な内容で楽しんで参加されている様子を可視化することで、地域での交流の場としてのフィットマンの活動を広く宣伝していく。 初めて福祉サービスを利用する方やその保護者にも安心して気兼ねなく、参加してみたいと思っていただくことで、新規利用者さんの確保につなげていきます。	

“すまいる”には、積極的にボランティアを募り、地域の方々との交流の場や機会とします。また、フィットマンの事業内容の理解促進につなげます。	ボランティアと参加者の交流を職員がフォローしていき、徐々に交流の輪を広げて行く様にしていく。 フィットマンの事業や普段の様子等を写真や動画等で見ていただき、フィットマンの地域における役割を知っていただくことで「またボランティアに来て協力したい」と思っていただく。	新型コロナウイルス感染拡大の防止の観点から予定していた「すまいる」は実施していない。事業計画作成段階で屋外での実施や人数制限等の感染対策を工夫することで実施を検討したが、変異株による感染拡大等があり、今年度の実施を見送っている。それに伴って、ボランティアの受け入れも実施できていない。
ボランティアを市社協の協力要請の他、北広島西高校をはじめとする近郊の学校（ボランティア部）との連携を強め、受け入れていきます。 事業所イベントに参加された利用者との様々な活動（創作・調理など）を通して“福祉”に携わる事の“楽しさ”や“やりがい”を見出してもらえる様に関わっていきます。	継続的にボランティアに来ていただく為に、計画的にボランティアを受け入れていきます。学生のボランティアには楽しみ、やりがいを持ってボランティアに参加してもらうことで、継続的にボランティアに来ていただき、将来的に福祉の担い手として働きたいと思ってもらうことを期待します。	

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
災害に備えての準備	法人内のBCMを基に事業所内のマニュアルを整備します。また、法人各事業所・部署の災害後方支援に携わる事を視野に入れ、BCMに反映します。	連絡系統等を含めて現在調整中。
	緊急時のご家族との連絡、連携、協力を視野に入れていきます。	フィットマン専用のスマートフォンにて優先度の高いご家族（特に高齢や単親世帯）がヘルプコールできる仕組みを検討している。

4. 魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
‘学び’から実践での成功体験につなげる	利用者の生活支援や余暇支援をサポートしていく上で必要不可欠となるご本人の“意思を汲み取るための支援”（意思決定支援）について、学習する機会を四半期に一度の頻度で設けていき、利用者と共に職員もワクワク出来る様な成功体験へとつなげていきます。また、そういった成功体験を重ねていきながら、帰属意識を高めつつ楽しい職場づくりへとつなげていきます。	意思決定支援については上半期は個々で学習して下半期に学んだ事を会議の場で発表していた。 外出先を選びやすいように写真付きのマップ（恵庭,千歳,苫小牧）を作成して、必要な方に使用している。今後、江別,札幌（厚別,清田）を作成していく。
業務の整理（直接支援以外での残業を軽減）	月間予定の中で、会議録等の直接支援以外の業務を勤務内で行える様に業務指示に反映させていく。	連携や工夫、調整にて現場職員の直接支援以外での残業は減少している。
職員1人1人の経験を尊重して活躍できる場をみんなで作っていきます	各職員の前職や過去に所属していた事業所での経験やこれまで人生で培ったスキル（公的な資格でなくても）を生かせる活躍できる場をみんなで作っていきます。行事等のその時々の内容から車両の整備等常日頃関わる業務においてそれぞれの得意な分野で活躍できる場を考えていきます。	「余暇グッズの作成」、「外出先のマップ」の作成や活動室の環境整備等、担当した職員の知識や経験、得意な事を生かした役割分担で利用者さんやその保護者からも好評である。

4．その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
指定居宅介護事業所としてのサービス提供	年間の目標件数～350件 内〖行動援護（250件）、家事援助（100件）〗	総利用件数は582件であった。令和2年度より139件の増加。 ・行動援護は、前年度（299件）に比べ、120件増加している。前年度、コロナ感染の拡大で自粛されていた方が、感染リスクの少ない内容（散歩等）での実施で利用を再開されたことや生活介護の利用がなかなかスムーズに移行できていない人が週3～4程度利用していることが増加の要因である。 ※令和4年度は生活介護の利用日数が増えていくことが見込まれている為、件数は減少することが予想される。 ・家事援助は定期利用の増加（冬季間のみの予定であった買い物支援が毎週2回となった）したことによって件数も増加している。

移動支援事業	年間の目標件数～420件	総利用件数は420件であった。令和2年度より6件の増加。しかし、通学支援を除くと令和2年度より27件の減少。 ・定期利用を含め、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、利用を見合わせる方が多くいた。 ・感染予防の為、映画館やボウリング等の施設が使えない、外食ができない等、希望に添えない状況であったが、ドライブスルーやテイクアウト、屋外の散歩等、感染リスクの少ない内容を展開している。
日中一時支援	年間の目標件数～2350件	・前年度に比べて、581件の増加となっている。増加の要因として、 ①法人内の短期入所を利用できないことや、法人外のサービスを受けることができない為、「代替え」としての利用が増えた。 ②つなぐ利用後にご家族の帰宅まで日中一時を定期で利用する方が増えた。 ・週に3回利用している方が、ご家族（主たる介護者の兄）の長期入院に伴い、9月4週目より兄が退院するまで毎日利用することになり、退院後もフィットマンをほぼ毎日利用している（朝、夕の服薬をお手伝いしている）。 ・法人内外の短期入所事業の再開によって令和4年度の件数は減少する見込みである。

つなぐ

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　つなぐ　事業計画報告

【令和３年度を終了して】

・下半期は定員×稼働日数に対して11月以外は稼働率がすべて100％を超えることができ、黒字化を期待したが、あと一歩届かない状況あった。次年度は黒字化を達成できそうなので、どれだけ貯金を稼げるかに目を向けて経営を進めていきたいと思う。支援現場の方では事業も4年目に入り、利用者の稼働も安定期に入ってきたので、令和4年度からは支援力の強化、保護者の養育能力の強化に着手していく。職員が子どもと向き合うための価値観の土台を形成しながら、専門的な知識や技術を学び、チームでの取り組みに必要な連携の強化を行いたい。
いずれは市内の他事業所から一目置かれる存在になれるよう努めていく。

【令和３年度稼働状況】

１．つなぐ　児童発達支援・放課後等デイサービス　多機能型

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	10	22	220	181	82.3%	
5	10	21	210	176	83.8%	
6	10	23	230	206	89.6%	
7	10	22	220	222	100.9%	
8	10	23	230	224	97.4%	
9	10	22	220	230	104.5%	
10	10	22	220	220	100.0%	
11	10	22	220	215	97.7%	
12	10	23	230	231	100.4%	
1	10	21	210	214	101.9%	
2	10	20	200	200	100.0%	
3	10	23	230	242	105.2%	
合計			2,640	2,561	97.0%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
児童発達支援利用児童５名と契約を結びます。 放課後等デイサービス利用児童３名と契約を結びます。	北広島市こども発達支援センターへの事業所パンフレットの配布と四半期ごとに定期的に利用ニーズの調査を行います。 →四半期ごとの利用ニーズの調査を毎月に変更して令和3年度は取り組みました。つなぐの利用契約数の観点から、毎日の利用が難しい部分が利用契約につながらなかったり、見学につながらない要因かと分析しています。7月の契約を最後に新規契約はありませんでした。	7月に目標稼働（10人/日）が達成できてからR4ほぼ稼働率100%を維持できているが、平均稼働率は約100％であり、思ったほど伸びていない状況である。 定期的な通院や体調不良（てんかん発作）が稼働率低下の要因であり、現場の力でコントロールしづらい部分でもある。 契約曜日以外で利用を希望する方は、利用人数のバランスを観ながら積極的に受け入れをしていきたい。

専門的な知識、技術の向上を目指し 利用児童にとって適切な支援を考えられる事業所を目指します。	・目的に合わせて外部研修へ積極的に派遣していきます。 ・外部研修での学びは、職員会議等で他職員へ必ずフィードバックします。 ・法人の看護師、理学療法士、管理栄養士などの専門職との連携。また法人内の発達支援技術研究会と連携し、１人ひとりのケースと向き合う力をつけます。	強度行動障害支援者養成研修等へ職員を派遣できたことで、強度行動障害児支援加算の取りこぼしがなくなる。研修等で得た知識を他の職員へ波及させて支援力の強化につなげていきたい。
意思決定支援の土台となるコミュニケーションを日々の支援の中で培っていきます。	・PECSやおめめどうの支援グッズを用いながら、音声言語だけのやり取りだけではないコミュニケーションの能力を高めていく。幼児期からコミュニケーションする力や選択する力を養えるよう、日々のかかわりの中から意識して取り組んでいきます。	意思決定の基礎となるコミュニケーションする力を実践の柱に掲げて取り組んでいる。今年度からコミュニケーションの表出と合わせて選択活動にも力を入れて取り組んできた。まだまだ選択活動が子どもたちの中で十分にできている状況ではないが、選択の機会を設けるという意識を職員が持ちながら視覚的な支援の定着（おめめどうのメモ帳を使って）を図っていきたい。
法人のサービス管理責任者を招集して、将来法人のサービス利用を希望する子ども達の情報共有の場を設け、スムーズなライフステージの移行を目指します。	・子どもの個別支援計画書を基に情報共有をしていきます。 ・ご家族が将来の福祉サービスをイメージできるよう、各事業所の現状を把握してつなぐからご家族に発信していきます。	利用相談センター主催の支援調整会議の場で、将来法人サービスにつながりそうな子どもの情報提供を行っていく。 令和3年度に高校を卒業する男子生徒1名とデイセンターに引継ぎをしてライフステージのスムーズな移行を行うことができた。
就業体験プログラムを通して、将来“働く”ことをイメージすることができる。	・学校の長期休みや土曜稼働日に当法人障害福祉サービス（ジョブ、セルプ、デイセンター）の日中活動を体験できるような活動を取り入れていきます。 ・ジョブやセルプの作業に関しては作業受注・納品・販売までの一連の流れを体験させていただくことで作業の流れや社会の仕組みを理解することにつなげていきます。	上記2つの目標はコロナの感染拡大防止の観点から他事業所との交流はできていない。
利用している子どもときょうだいが、一緒に過ごす時間が楽しいものだと感じられるようなイベントを企画していきます。	利用している子どものきょうだいも一人の子どもとしてその子らしく育っていけるよう、長期休みや土曜日イベントの時間を活用して利用している子どもたちと楽しく参加できるイベントを企画していきます。	
保護者の養育能力の底上げしていくために、保護者向けの研修・講習・茶話会を運営していきます。	ご家族への個別懇談を半年に1度開催し、日々の支援の説明を映像や支援環境の説明を交えながら丁寧に説明し、保護者への支援内容の理解を促進していきます。個別懇談は両親参加型を目指し、父親の子どもへの理解を促進していくはたらきかけをしていきます。	保護者勉強会は開催できていないが、個別懇談の際に家庭での暮らしをより充実させていくための支援グッズの提案をさせていただいた。現在４名のご家庭で支援グッズを取り入れてくれている。

ノーリフト支援の視点を支援現場の中に浸透させていきます。	移乗方法や介助が必要な場面を洗い出し支援方法を見直しながら、子どもが心地よく介助を受けられるような介助方法を職員会議や朝会の場で意見を出し合いながらノーリフト支援の視点に基づいて議論を進めていきます。	子どもを安易に抱きかかえないという取り組みを実践している。どの場面でも抱きかかえないということは難しいが、極力子どもが自発的に行動できるように支援者側からの情報提供の質を高めていくことに重点をおいて取り組んでいくことで、子どもを抱っこする場面が減少している。 　これだけ体操（腰痛予防）を1月から取り入れて実践している。まだまだ声掛けが必要な段階だが、継続して取り組みながらモニタリングをしていく。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
地域資源の活用 他の福祉施設とのパートナーシップを結び双方にとって事業所の垣根を超えた地域福祉の協働を目指すことのできる土台を作ります。	他の事業所の見学や共同でイベントを開催しながら、つなぐを利用する子どもたちにとって必要な情報を集めます。それを基に事業内容をより充実したものにつなげていきます。	コロナの感染拡大防止の観点から他事業所との交流はできていない。
大学と連携して、新しい療育アイデアや臨床心理の視点を療育の中に取り入れます。	音楽療法、運動療育、芸術などを得意とする大学に協力を依頼し、専門的な知識を支援に生かしていく。 ・臨床発達検査などの取り組みのある大学と連携し、実践に結び付けられるような知識を取り入れていく。	岩見沢教育大学との連携で、子どもの運動発達の相談やつなぐの運動プログラムへのアドバイスをいただいている。また、大学生の卒論研究の協力依頼があり、今後も連携しながら取り組みを継続していけそうである。
ボランティアの登録。	学生や市民向けのボランティアシステムを作り、ボランティアをした人が情報を得やすいようなシステムづくりを法人内ボランティア推進委員会と連携して作り上げていきます。	学校の単位取得にボランティアの参加が必要な学生を3名受け入れた。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
北広島市自立支援協議会発達支援部会へ参加し、地域の発達支援の現状把握及び情報収集を行い、児童発達支援立ち上げの土台を作ります。	障がい者自立支援協議会こども支援部会に参加し、市内の実情把握を行います。	子ども発達支援センター（事務局）には打診しているが、現時点で定例の会議には参加できていない。

防災対応の準備のため、備品の管理やマニュアルの整備を行い、災害発生時に対応できるよう準備を進めていきます。	法人ＢＣＭをもとに事業所としての役割を会議で職員周知し、マニュアルをLineでそれぞれが閲覧できるように整備していきます。 ・緊急時に備え、保護者との連絡や避難場所の明確化など保護者との緊急時の情報ツールを確立していきます。	BCMマニュアルの整備、シミュレーションを職員会議で確認している。有事に備えて各職員が迅速に対応できるよう今後も訓練を定期的に実施していく。 つなぐの防災ＬＩＮＥを立ち上げ、学生も含めて、全職員の防災への意識付と、災害が起こった際の初動の確認を定期的に行っていく。
災害時の地域連携の意識を強化するために、様々な研修に参加していきます。	地域の中にある福祉事業所として、どのような役割が担えるのかを検討しながら、災害時マニュアルを整備する。 ・事業所としても地域の防災研修に子ども達と参加していく。	今年度は実施できていない。

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
“大切なものがあるから、がんばれる”職員集団を目指し、職員の満足度調査で前年度の数値を上回ります。	・職員1人ひとりが大切にしているものを理解し合うことで、休みがとりやすく尊重し合える風土をつくりあげていきます。 ・職員の満足度調査の結果を分析し、つなぐのセールスポイントと、ウィークポイントの洗い出しを行いながら、職場環境の整備をしていきます。・令和2年度の有給をすべて消化します。	休みの取りやすさや休んだときにチームとしてカバーし合える土台が形成されていると感じている。今年度は令和2年度の有給は完全消化（できれば令和3年度分も完全消化）を目指し取り組みました。
社福、介護、保育実習生の受け入れを行い、実習後にアルバイト登録やボランティア登録してくれる学生を３名確保します。	大学、短大、専門学校の社福、介護、保育実習は積極的に受け入れていきます。保育実習に関しては保育実習Ⅲはつなぐがメインで実習先とすることができますが、保育実習Ⅰに関しては登録することができないため、他事業所で保育実習している学生さんが実習期間中につなぐで実習が行えるようなシステムを法人内保育実習受け入れ委員会と連携して作り上げていきます。	前期に2名の保育実習生を受け入れしている。 今年度のアルバイト登録は4名の学生が新規で採用され。 年度末で3名が退職となった。 3月にセルプから保育実習中の見学で学生が1名訪問してくれた。 GPから2名のアルバイト生が春休みを利用して、つなぐのアルバイトに来てくれた。
法人及び事業所の魅力を社会に発信してたくさんの人の関心を引き寄せ、事業所の利用契約や職員雇用につなげていきます。	フェイスブックやホームページを定期的に更新し、事業所の取り組みが魅力的だと感じてもらえるような情報発信をしていきます。 ・情報は毎月月末に更新していきます。	フェイスブックやホームページの更新が滞ってしまった。フェイスブックやＩｎｓｔａｇｒａｍは保護者が頻繁にチェックしてくれているので、令和4年度からは更新頻度を毎月に設定して取り組んでいく。

職員がスキルアップすることで、利用している子どもたちに最善の支援や環境を提供していきます。	・法人内外の各種研修会への参加を促進していきます。 ・いつでも支援内容を確認し合える関係づくりを目指し、わからないことをわからないままにしない風土を築いていきます。	チームで様々なケースに対して向き合い、統一した支援を心がけて実践を積み上げていくことができた。外部機関（おがる）からコンサルテーションを定期的に実施していただき、支援力が向上していると評価をいただいる。 　フルタイム職員の支援力は確実に向上していると思う。これをパートタイムやアルバイトの職員にいかに伝承していくかがカギとなる。 今年度はつなぐのＬＩＮＥに“勉強部屋”というグループを作成し、毎日支援のマインドの基礎となりそうな記事を掲載したり、有益な研修の案内を行っている。令和4年度も継続して取り組んでいく。

４．その他

①インシデントの発生状況	3件	9月：1件（他者への危険行為） 10月：1件（器物破損） 11月：1件（館内での所在不明）
②虐待・身体拘束の状況	0件	パニック時の対応で身体拘束の同意書につながりそうなケースが1件あり、同意書をかわす必要があるか保護者や相談支援事業所と検討中。
③感染症の集団発生状況	1件	3月にコロナウィルス陽性者が4名発生。
④車両事故の発生状況	1件	9月：前方不注意による追突事故
⑤労働災害の状況	1件	5月：自転車通勤時に転倒し、けがを負ったことによる労災

障がい者就労支援センター

めーでる

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　障がい者就労支援センターめーでる　事業報告

【令和３年度を終了して（総括）】

令和３年度相談事業の相談件数4.052件、サービス等利用計画1.118件、総件数5.170件となり、前年度と比較し400件増加した。コロナ禍でも転職を希望され求職活動をする方が増え、就労実績２６件となり、前年度と比較３件増加した。自立生活を目指す方や家族関係の悪化等を理由にグループホームへの転居希望をされる方が増加傾向であったり、体調面では精神科の入退院を含め医療機関と連携するケースが多かった。福祉サービスを利用する方の計画相談は、計画137件、モニタリング235件となり前年度と比較し８件増加した。新規の計画作成依頼は14件あったが、既存の方で就職等でサービスを終了するケースもある為、大きな件数増加には繋がっていない。 コロナの状況を見ながら在職者のレクレーション企画を進めていたが、コロナ感染者数の増加や蔓延防止措置の決定などで開催を延期せざるを得なく、今年度は実施する事は出来ていない。利用者からは開催を希望する声もある為、次年度は感染対策をしながら開催出来る方法を検討していく。 北広島市内の各就労事業所と情報交換会を行う予定だったがコロナ禍で開催する事が出来ていない。今後は感染状況を確認しながらリモートも取り入れ開催していく。

【令和３年度事業計画４月～３月の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	4月～３月進捗状況
相談支援	利用者支援で間違った方向にいかないよう他機関の支援力の底上げに協力し、共に支援力をつけていく。	他機関のケースに相談支援専門員としてケース会議に参加し、事業所都合で利用者を動かしていないか・不利益になるような支援を行っていないか気付きに繋がげるよう助言した。
人権の尊重	支援の方向性が不適切な支援につながっていないか振り返る。	上記のケースを事業所内でも振り返りを行った。自分たちの支援が支援者側の都合になっていないか、ご本人の意思に寄り添えているかを内部でもケース会議で検討した。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	4月～3月進捗状況
余暇支援	在職者のレクレーション企画。	実施には至っていない。
自立支援協議会	就労部会、精神障がいプロジェクトチームに参加。	就労部会では職業訓練校と連携しながら学習会を企画する事務局として活動。プロジェクトチームは当事者の声を会議で発信できる場をつくった。

サービス等利用計画	住み慣れた地域で継続して生活するために、本人の希望や課題など生活全体を総合的に捉えて具体的支援を明確にしサービスを調整する。	インフォーマルな支援を含めたサービス『等』利用計画を作成した。ZOOMやLINE等のオンラインを活用しながら毎月予定した計画・モニタリングを行いながら収入を確保できるように計画的に遂行する事が出来た。

3．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	4月～3月進捗状況
災害時の対応	災害時連絡優先リストの整理。	リストは作成しているが都度更新する事が出来ておらず古い状況のままとなっている為、更新を行う必要がある。

4．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	4月～3月進捗状況
働きやすい職場つくり	業務過多にならないよう業務の見直しや勤務調整を行う。	業務過多にならない様に業務分担を行った。業務上超勤になり得る事がわかっている際は遅番に勤務変更したり、妊娠中の職員にも業務量や環境にも配慮した。個別に職員の困りごとの聞き取りも行いながら心理的安全性が保たれる職場になるよう努力した。
職員育成	法人内委員会や外部講習に参加し理解を深める。	各研修にリモートで受講参加した。受講した内容を事業所内部で報告、学習会等を行い、職員全体で必要な知識を学ぶ機会を設けた。

相談室ここに

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　相談室ここに　事業報告

【令和３年度を終了して】

実施予定であった計画更新（154件）、モニタリング（534件）の実施状況については計画更新（173件）、モニタリング（537件）と、事業計画による実施予定件数を上回った。年度を通してコロナ感染対策により、サービス提供時モニタリング加算が請求できない状況が続いていたため、市から依頼があった児童の新規ケース（14件）の受け入れを積極的に行った。 加えて、法人内利用者の障害支援区分認定調査の受託業務（3件）と行動障害支援体制加算の算定が可能になる為の研修を積極的に受講し、令和4年1月より加算を取得開始することができた。下半期には、他機関からを含む７件の新規計画ケースを受け入れた。 予定していた件数を確実に行い、予定収支をプラス収支にて終えることができた。

【令和３年度事業計画の達成状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	達成状況
相談支援	対象利用者や当該事業所、ご家族の要望や解決が必要な課題が生じた場合に迅速に対応するよう心掛ける。	各関係機関との連携を行いながら地域資源の開拓・把握に努め、インフォーマルな資源を含めたサービス調整・支援を行った。児童のケースでは必要に応じて学校や関係機関、高齢者の対象ケースにおいては、居宅介護支援事業所との連携など行い、それに伴った加算（集中支援加算・居宅介護支援事業所等連携加算）等を取得した。
サービス等利用計画作成	サービス等利用計画	障がいにより言語でのコミュニケーションが難しい方については、非言語コミュニケーションで表出されるご本人の意思を大切に、意思決定支援を行う支援者からも情報をくみ取りながら計画書に反映させた。また、児童についてはご家族の思いが先行しすぎてしまわないよう、ご本人・ご家族の思いを丁寧に聞き分け、計画書に記載するよう努めた。
	モニタリング	
基本相談業務	サービス提供事業者との連絡調整連携	障がい福祉サービス利用時におけるサービス等利用計画作成はご本人を中心とした意思決定を根拠とし、サービス提供事業所などと連絡調整を行いながら支援を進めた。また、必要に応じてサービス担当者会議を開催し、必要な情報の共有とご本人の最善の利益のために、ご本人を応援する「チーム」を結成できるよう取り組んだ。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	達成状況
障害支援区分認定	他市町村からの依頼を受けて受託。	法人内利用者の障害支援区分認定調査を3件受託した。
職員体制	北広島市のみならず、市外のケースにおいても、内部で検討をしながら積極的に新規を受けていく。	体制が整った5月以降からは3名での職員体制で計画相談支援を遂行。年間14件の新規児童受け入れ、移管ケース3名、施設入所に伴うセルフプランからの新規計画4名、就労アセスメント1名を受け入れた。（市外ケース含む）
児童関係研修会	研修会や茶話会の開催	感染症対策や社会情勢により、未実施。 法人内でできることとして就労支援センターめーでると共同し、互いの事業所ケースを用いた合同の勉強会（7月）の開催や、令和3年度報酬改定にかかわる勉強会（9月）を開催した。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	達成状況
災害時	災害時の連絡、協力体制	法人内事業所で新型コロナウイルス陽性者が発生した際の支援協力に応じた。その他コロナワクチン接種の予約開始時には、利用者からの問い合わせに対応すべく、対応方法やアナウンスの内容を就労支援センターめーでると協力して統一するなど体制を整えた。

４．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	達成状況
働き方・研修	個々の職員のスキルアップ研修への参加	・相談支援専門員初任者研修（オンライン）、相談支援専門員現任研修（オンライン）参加 ・行動援護従事者研修（オンライン　11/29～12/2）参加 ・第2回北広島市発達支援講演会（オンライン）　10/1（金）参加 ・障害者虐待防止研修会（オンライン）　10/12（火）参加 ・全道知的障がい関係職員研究大会（オンライン）　10/27（水）参加 ・権利擁護セミナー（オンライン）　11/19（金）参加 ・相談支援セミナー（オンライン）　12/7（火）参加 ・相談支援・就業支援セミナー（オンライン11/25～12/10）視聴 ・第2回北広島市障がい児支援事業交流会（オンライン）12/16（木）参加 ・北広島市主催計画相談支援事務打ち合わせ（北広島市役所）2/10（木）参加

５．その他

・インシデントの発生状況：１件
令和4年1月のインシデントについては、計画相談支援給付費請求において、人事異動に伴い精神障害者支援体制加算の体制が整わないにもかかわらず、加算を算定し取得していたことから、過誤の請求として各自治体に加算を取り下げる事象があった。その後モニタリングを行い、請求担当事務職員との加算要件の確認や給付費のチェックなど今一度整理して進めていくこととなった。今後も部署内、他部署間での連携強化へ向けて進めていくことで再発防止に努めていく。

東部緑の苑

短期入所東部緑の苑

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　東部緑の苑（特別養護老人ホーム/短期入所生活介護）事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

Ⅰ．10月4日、4階ひすいユニット入居者1名に対し、職員1名による傷害事件及び身体的虐待事案が発生した。当該入居者は12月13日に傷は完治されると共に、当該入居者ならびにご家族・関係機関に対し、信用を損なう事案となった。10月7日～27日の期間で関係行政ならびに捜査機関からの監査及び聴取を受け、1月26日、関係行政から介護保険法に基づく再発防止に向けて勧告・指導を受けた。再発防止計画に基づく活動を法人権利擁護委員会と協働しながら実践し、モニタリングを重ね、継続して取り組んでいる状況である。

※当該加害職員は10月22日付けで諭旨退職した。

Ⅱ．新型コロナ関連では、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除されている時期に、エントランスでの面会を再開した。外泊や居住区への外部の方々の入室は法人の感染予防基準に沿って再開していない。罹患状況としては、入居者の感染者数は0人・職員の罹患者数は3人であった（時期は8月、9月、3月）。また、ワクチン接種については関係行政や医療機関の協力のもと、3回目接種を終えている入居者が80%弱、職員が90%という状況である。

Ⅲ．今年度から開始されたLIFE（科学的介護）について、算定活動を進めているが、フィードバックの具体的な内容がなく、仕組みとして滞っている状況である。

Ⅳ．4階ひすいユニットにて4月20日に職員1名が入居者1名に対する不適切な支援が発生した（内容：入居者がトイレ以外の場所でしてしまった排便の処理を当該入居者に手伝わせていた）。本件について、①当該スタッフへの継続した教育的指導のoffJT実施②全職員を対象とした“高齢者虐待”に関する再確認の機会づくり③全スタッフ対象に“適切な支援を選択するための基準”ツールを活用した合意形成の機会とした。

※4月20日市高齢者支援課に報告済み。

※本件の対象職員は10月4日の加害職員と同一職員である。

【令和３年度稼働状況】

１．特別養護老人ホーム（事業名　例：施設入所支援）　　目標稼働率：98.５％

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	100	30	3,000	2,945	98.2%	入院3人：合計36日/入居2人退居3人
5	100	31	3,100	3,051	98.4%	入院3人：合計46日/入居3人退居3人
6	100	30	3,000	2,950	98.3%	入院2人：合計20日/入居3人退居3人
7	100	31	3,100	3,065	98.9%	入院2人：合計33日/入居1人退居1人
8	100	31	3,100	3,061	98.7%	入院1人：合計22日/入居2人退居2人
9	100	30	3,000	2,972	99.1%	入院4人：合計27日/入居1人
10	100	31	3,100	3,010	97.1%	入院5人：合計78日/入居1人退居2人
11	100	30	3,000	2,963	98.8%	入院4人：合計39日/入居2人退居3人
12	100	31	3,100	3,009	97.1%	入院7人：合計79日/入居2人退居2人
1	100	31	3,100	3,016	97.3%	入院5人：合計31日/入居3人退居5人
2	100	28	2,800	2,764	98.7%	入院2人：合計8日/入居3人退居3人
3	100	31	3,100	3,016	97.3%	入院2人：合計10日/入居3人退居3人
合計			36,500	35,822	98.1%	入院日数延べ429日（目標792日（66日/月））：入居27人退居30人

２．短期入所生活介護（事業名　例：生活介護）　　目標稼働率：90%

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	20	30	600	490	81.7%	
5	20	31	620	488	78.7%	
6	20	30	600	457	76.2%	
7	20	31	620	447	72.1%	7月13日ケアプランセンター東部緑の苑との営業戦略会議の実施。
8	20	31	620	441	71.1%	8月26日～9月9日新型コロナ関連イエローゾーン対応。
9	20	30	600	417	69.5%	特養入所1人
10	20	31	620	468	75.5%	
11	20	30	600	415	69.2%	老健入所1人・特養入居2人
12	20	31	620	430	69.4%	長期入院2人・特養入居2人
1	20	31	620	500	80.6%	
2	20	28	560	491	87.7%	
3	20	31	620	473	76.3%	
合計			7,300	5,517	75.6%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
権利擁護関連	“適切な接遇の習慣化・実践”	①5月、丁寧語の使用だけではなく、ホスピタリティを合わせること・法人しまニチュード委員会が提唱する技術の実践に評価内容を変更した。 ②毎月開催するリーダー会議なで取り組みをモニタリングしてきた。
	身体拘束ゼロへ運営委員会による啓発活動及びモニタリング機能	①最低月に1度センサー関連の使用状況のモニタリングを実施。継続。 ②7月に身体拘束が生じそうなケースが発生。フローチャートに基づく対応の周知・実践。継続。
	外部研修に派遣し、伝達研修の開催	①9月13日～9月21日道社協主催の高齢者虐待防止研修（オンデマンド）に8名参加。 ②③1月15日、3月15日にいずれも高齢者虐待防止・身体拘束訂正化をテーマにした研修職員を派遣。研修内容の伝達研修を翌月の各ユニット会議で実施。
認知症ケア	各ユニット四半期毎行動計画に到達目標を設定	中核症状や行動心理症状にフォーカスをあてたアセスメント技術の未習得・不安の解消につなげられていない現状と評価。 ユニット会議を活用した勉強会を開催。 認知症ケア研修に複数名を派遣。翌月のユニット会議内で伝達研修を実施。
看取り援助	看取り介護加算算定要件に準ずる活動（支援）の実践	今年度新設された看取り援助推進室と活動をタイアップし、基本指針・同意書・フローチャート・カンファレンスの頻度等の内容を再評価。 内容を一部改定し、順次導入した。
ユニットケア推進	衣・食・住の“住”にフォーカスをあてた推進活動	対象入居者を選定して“住み慣れた居住空間”づくりを計画的に実践。3月に3つの事例（もえぎ・うぐいす・ひすい）を事業所全体で共有した。
ノーリフトケア	年度末に全スタッフが“スライディングシート・ボード・グローブ”の活用方法の習得	月に1度の衛生委員会で実践研修を実施。各ユニットから選出されたスタッフが各ユニット会議にて伝達研修の実施。 結果、目標の達成に至らなかった。用具の使用よりも効率化や介助の所要時間の短縮が優先されている現状。課題である。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
稼働率の維持①	特養と短期入所の稼働を補完的に作用する	①特養は年度を通して30人の退所（内24人看取り退所）27人新規入所があった。入退去期間の平均日数が11.2日であり、目標稼働の達成に至らなかった。 ②隔月に特養相談員と短期入所相談員の協働で医療機関への営業活動に効果あり。待機者の情報整理を半期に1回実施。待機者数管理に対策を講ずる。 ③短期入所は新型コロナを警戒し、新規契約活動が滞った。目標稼働の達成に至らなかった。対策を講ずる。
	空室を8日以内にする	
	入居者待機者の情報整理と新規利用希望調査	
介護現場の生産性向上	インカム端末（ipod touch）の導入・活用	10月18日より導入。職員の身体的、精神的孤立予防に効果あり。
地域活動	入居者との交流事業の受入れ・出前講座の請負	リモートを活用した地域サークルとの交流を12月、1月、2月に開催。 地域団体と共に市内小学校の車椅子体験事業に参加（10月、11月）。
人材の確保①	外国人人材・実習生受入からの人材の確保	相談援助実習生を7月、9月に受入。就職にはつながらなかった。

3．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
非常時対応の準備	市消防本部と連携した訓練の実施	新型コロナ関連感染予防に伴い、自主訓練となった（7月27日、1月25日実施）。
	感染症予防及び対策訓練の実施	PPE着脱訓練実施。ゾーニングマニュアルの検証。 ゾーニング補助金の申請認可（10月9日設置）。
	備蓄品の情報更新と補充	7月17日管理栄養士監修のもと対応済。
福祉避難所の整備	行政及び法人施設危機管理部との連携管理	未実施。

4．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
人材の育成	スタンダード研修・事業所内OJTマニュアルの実践・目標管理シート面談の活用	介護技術・摂食嚥下知識・看取り援助に関する知識技術・認知症ケア知識技術・排泄ケアアセスメント知識等に関するしての明確な習得段階掲げられていない。 対策を講ずる必要がある。
楽しい職場づくり	有給休暇80%取得・資格取得の応援・イベントを通しての“やりがい”づくり	法定取得日数以上の取得がされたいた。 資格取得については、1人が介護支援専門員合格。2人が介護福祉士合格した。 イベントは各ユニット単位で随時開催。また、7月緑苑祭・9月敬老会・12月もちつき・1月獅子舞巡行・2月地域サークルイベントなど、新たな生活様式に合わせた形式で実施できた。 スタッフの“やりがい”の評価が困難な状況。今年度は10月4日の事案の影響で1人が退職。職場内人間関係関連で2人が退職、1人が異動した。 中途採用7人（内パート1人）。法人内人事異動2人。退職8人（内パート職員（2人）。
広報誌の発行	事業活動の透明性の確保	行事広報委員会が月に1度広報誌を発行した。 10月4の事案以降、委員会メンバーが活動意義を再確認し合い、家族や地域団体に的を射た広報活動を実施した（11月：全職員紹介記事・3月：ご家族向け情報ニーズ調査の実施）。

5．その他

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
PDCAサイクルの習慣化	到達目標を明確に掲げ、チームで共有し活動する	各部門に四半期毎の運営計画の策定義務付けて活動した。 現状に見合った活動にする。対策を講ずる必要あり。
拡大ケースカンファレンスの標準化	多様なアセスメントを根拠にした支援実践の習慣化	対応が困難な入居者支援や家族対応について、ユニット間で類似したケースを多角的に検証や実施対応策を講ずる仕組みを取ってきた。今後も継続が必要である。
稼働率の維持②		○特養：入院期間延べ429日（令和2年度225日）。空床日数延べ340日（令和2年度139日）。入院者数は23人で、入院要因が転倒8人、肺炎4人と半数を占めた。 ○短期入所生活介護：新型コロナ関連のキャンセル数が27人。定期利用されていた利用者の内、18人が特養入居、2人が老健入所、11人が長期入院に至っていた。

デイサービスセンターヴェール

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　デイサービスセンターヴェール　事業報告

【令和３年度を終了して(総括）】

引き続くコロナ禍の影響を受けた中、事業計画の進捗としては概ね計画通りに進むことができた。ただ、6月より新規開設したサテライト事業の稼働が計画を大きく下回る結果となった。きた、ひがし高齢者支援センター（地域包括センター）を中心に新規利用の問い合わせはあるものの、「ひとりめ」になることの抵抗感が想定を大きく上回り（相談のあった利用者はヴェール本体にて契約）、９月にようやく新規利用1人目となった（きた高齢者支援センター）。その後わずかながら契約数を増やし、最終的には5名が契約となっている。

ヴェール本体の稼働は、目標の稼働率76％に対し74.5％と目標に近い数字となっており、新規利用契約も19名（終了18名）と健闘した（新規利用内訳：ケアプランセンター東部緑の苑7名、外部居宅支援事業所12名）。

事業全体の対予算収支差額は約△8,000,000円、サテライト事業のマイナスがそのまま反映されており、次年度は引き続き本体事業所を高い稼働で安定させつつ、サテライト事業所の稼働増に向けた取り組みに尽力していく。

【令和３年度稼働状況】

１．デイサービスセンターヴェール（通所介護事業）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4	25	26	650	471	72.5%	
5	25	26	650	469	72.2%	
6	25	26	650	467	71.8%	
7	25	27	675	484	71.7%	
8	25	26	650	493	75.8%	
9	25	26	650	511	78.6%	
10	25	26	650	516	79.4%	
11	25	26	650	515	79.2%	
12	25	26	650	501	77.1%	
1	25	25	625	461	73.8%	
2	25	24	600	406	67.7%	
3	25	27	675	502	74.4%	
合計			7,775	5,796	74.5%	

２．デイサービスセンターヴェールいなほ（通所介護事業サテライト）

月	定員	稼働日数	月間総定員（人）	延利用者数（人）	稼働率（%）	備考
4			0		#DIV/0!	
5			0		#DIV/0!	
6	10	26	260	0	0.0%	
7	10	27	270	0	0.0%	
8	10	26	260	0	0.0%	
9	10	26	260	5	1.9%	
10	10	26	260	7	2.7%	
11	10	26	260	8	3.1%	
12	10	26	260	21	8.1%	
1	10	25	250	17	6.8%	
2	10	24	240	22	9.2%	
3	10	27	270	25	9.3%	
合計			2,590	105	4.1%	

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者が生活を営むうえで必要な身体機能の維持、なんらかの理由により使われることの少なくなった残存機能の引き出しを目的とした積極的な機能訓練、生活訓練の取り組みで、転倒、転落、機能低下による入院、体調不良の防止に努める	個別機能訓練加算Ⅰロ及び運動器機能向上加算を算定	機能訓練指導職員による個別の機能訓練、介護職員による生活訓練を中心に取り組みを行う。当初計画していなかった個別機能訓練加算Ⅱも体制を整え算定、年度中の算定額合計は約3,600,000円となっている。
口腔機能が低下している、またはその恐れのある利用者に、個別で口腔機能の向上・維持を目的とした口腔清掃の指導や、摂食・嚥下機能に関する訓練等の取り組みで、喉つまり、誤嚥性肺炎等の感染症による入院、体調不良の防止に努める	口腔機能向上加算Ⅰを算定	対象利用者は5名（4月時点では8名）で、看護職員による口腔ケア、指導が行われている。年度中に嚥下機能の低下、誤嚥性肺炎のケースはなく取り組み経過は良好。算定額は約200,000円となっている。
低栄養状態にある利用者、またはその恐れのある利用者に、栄養状態の改善を目的とした個別の栄養に関する食事相談等の栄養管理に取り組み、低栄養による入院、体調不良の改善と防止に努める	栄養改善加算を算定	対象となる利用者、希望される利用者がおらず、年度中の算定はない
「介護・看護職の腰痛予防対策」、「利用者の自立度を考慮した福祉用具の使用による移乗」を主旨としたノーリフティングケアを定着させ、利用者、家族、職員、すべての人にとって安全・快適なケアを実現する	基本動作の習慣化（ボディメカニクスとパワーポジション） スライディングシート・スライディンググローブの積極的な活用 重度化に備えた利用者の福祉用具活用体験 家族への福祉用具活用の啓発活動	機能訓練専門委員会を中心に基本動作の確認、福祉用具の活用に取り組んでいる。利用者の福祉用具活用体験はコロナ禍で見合わせ、家族への啓発活動はケアマネジャーとの連携で数件の結果が残せている。
顧客満足度の向上を目的とした利用者及び家族への年２回のアンケートを実施する（各項目平均満足度９５％以上、「とても満足している」７５％以上）	年２回の「ご利用者様満足度アンケートを実施 調査内容の速やかな提供サービスへの反映 事業所評価として開示（掲示）	9月、3月にアンケートを実施。各項目平均満足度（「とても満足している」「まあまあ満足している」の合計）は99%と高い満足度を維持しているものの、「とても満足している」の割合が73.7%と、前回の80.4%を大きく下回っている。自由記載欄にあった意見を速やかにサービスに反映するとともに、提供プログラムの細かい見直し、実施結果をホームページ上で開示予定。
終末期を迎えた場合であっても自宅での暮らしを望む利用者及びその家族に、安心、安息で安全な介護サービスが提供される環境を充実させる	利用者、家族、居宅支援事業所へのサービス内容の周知 利用者及び家族への延命処置に関する書面による意向確認 医療機関及び訪問診療、関係サービス提供事業所との連携 職員の意識、知識、技術の一層の向上を目的とした勉強会	事前に在宅での看取り意向の確認が出来ていた一部ご家族を対象に、冊子『人生を「生ききる」を支える～最期のときまで利用できるデイサービスセンターヴェール』を準備し事業所の取り組み周知に努めている。早急な対応が必要と思われたケースにはケアマネジャーを通じ担当者会議を設定、主治医を交えて改めての意向確認と各サービスの連携を確認、事業所としてはじめての「同意書」を取り交わしている。経過から情報共有を行ってきた職員理解が一部進まないこともあったが、今後も繰り返しの話し合いと利用者、家族にとって安心、安息で安全な環境づくりに取り組んでいく。

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
契約者７０名、２５名定員における充足率７６％（１日あたり１９名稼働、うち要介護利用者１８名）達成を目標とする	新規利用開拓のため、居宅介護事業所へのＰＲ活動並びに事業内容の公開を継続、事業所としての信頼を高める	年度中の本体事業所の稼働率は74.5%と概ね目標に近い数字となった。4～7月（稼働率約72%）はコロナ禍の影響が強く市内の介護保険全体が停滞してるとのことであったが、8月中には徐々に動きも活発になり新規利用の相談も増え、9月～11月は約79%と高い稼働となった。しかし、1月以降は介護度の高い利用者、複数回利用者が相次ぎ利用終了、2月には大雪の影響で利用者がゼロとなる日がある等、大きく稼働を下げることとなった。
市内福祉従事者向け研修の開催、市内事業所交流会の運営に積極的な役割を果たし、タウンミーティング、子供や高齢者を対象とした各種イベント（ふれあいの集い、社会見学等）の運営にも積極的に関り、地域福祉の推進に貢献する	北広島市介護サービス連絡協議会（きたひろサービスネット）との連携 北広島市東部たすけあい会議との連携	コロナ禍の影響を受け、この期間中の各研修、イベントは行われていない

介護度や居住地によりサービス利用機会のない高齢者への日中活動、入浴、運動、交流機会の場の提供を目的としたサテライト事業所を、令和３年６月を目処に開設する	事業所内でのサテライト開設運営チームによる準備（物品準備、運営シミュレーション、書類作成等） 北海道及び北広島市への申請書類の確認、提出 物件の内外設備の確認、契約、必要に応じた改修 町内会及び周辺地域への説明、挨拶周り 各高齢者支援センター及び居宅支援事業所への開設告知、広報活動 新規利用者契約 収支シミュレーション	行動計画に基づいて早々に準備を開始、当初の想定より建物の老朽化が激しく、開設前の修繕・整備による支出は約1,000,000円と大きく膨らんだ。開設は予定通り6月となったが、新規利用の見込みが甘く、また、介護保険の停滞やひとりめの利用者確保の難しさ等に直面し、3ヶ月を経過しても利用者がいないという事態となった。9月からは地域貢献室の協力や本体事業所との柔軟な連携で新規契約はあったものの、数字としてはまったく振るわなかった。

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
利用者のサービス利用中を想定した災害訓練、在宅時を想定した災害への備えについての講習等継続した取り組みを行う 様々な災害を想定した各高齢者支援センター及び居宅支援事業所との連携、情報共有、家族サポートの体制について、サービスネット研修等を通じて一層の強化を図る	火災避難訓練 火災避難講習 災害避難訓練 災害避難講習 関係機関との連携 サービスネット研修	5月に火災、10月に地震、3月に水害を想定した避難訓練を実施。同日に防火管理者による、在宅時の災害を想定した日頃の備え等についての利用者向け講習を行っている。サービスネット研修は期間中の開催なし、各高齢者支援センター及び居宅支援事業所とは情報共有を密に行っているものの、災害に特化した家族サポート等の話までは出来ていない。
新型コロナウイルスやインフルエンザをはじめとした感染症の脅威から、利用者、職員及びその家族の生命と安全を守るための予防対策強化を図る	法人感染症予防対策委員会との連携 感染症予防対策関係研修への参加 利用者の食事等環境の整備 スタンダードプリコーションの徹底、習慣化	特にスタンダードプリコーション、利用者の食事環境の整備に注力した。館内の消毒や清掃、換気はもちろん、送迎車内の使用毎の消毒、対面での食事にならないよう利用者への協力の呼びかけ等に取り組んだ。期間中の利用者、職員の新型コロナウイルス罹患はなく、目標は達成されたと評価できる。インフルエンザの流行する下半期にも罹患者はなく経過した。

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員ひとりひとりが協調性を持ち、かつ主体的な取り組みでやりがいを感じることの出来る職場環境を実現する	職員からの提案には積極的に具体化を目指し全員が成功をサポートする 定期的な個別面談での提案の吸い上げと取り組みの振り返りを行い、ひとりひとりが具体的な目標を持てるようサポートする	会議や面談、打ち合わせに限らず、日常的に現場職員から直接役職、管理職を問わず提案、相談、報告が行われている。同時に管理職から直接現場職員に相談、情報共有することも日常的に行われており、それぞれがやりがいを感じ主体的な取り組みを見せてくれていると評価している。
役職や職種、年齢、経験を問わず意見の言い合える職場関係を実現する	事業所特性を活かした毎日の細かい情報共有と職務連携	
認知症についての理解のもとで利用者主体の介護を行い、認知症の人の尊厳の保障を実現していく観点から、すべての職員の認知症の対応力向上をはかる	認知症介護基礎研修の受講 認知症介護実践者研修の受講	予定、申し込みをしていた実践者講習はコロナ禍の影響を受け中止、基礎研修は10月に1名の受講が出来ている。
国際協力としての技能移転を目的とする外国人技能実習生受け入れに向けた準備を進める	関係研修への参加、派遣 法人委員会での協議・検討 事業所内での情報共有	コロナ禍の影響を受け、この期間中の取り組み、進展はない

４．その他

①事故の発生状況

インシデント報告：6件（転倒：3、薬：2、その他：1）

事故報告　　：2件（薬：2）　誤薬、落薬それぞれについて対策実施、経過良好

②虐待及び身体拘束の状況

なし

③感染症等の集団発生状況

感染症等の集団発生なし

④車両事故の発生状況

車両事故4件：3月の雪害によるバンパーやスライドドアの破損が4件続いた。今季は車が通れないであろう狭くなった住宅街を走らなければいけない状況や、積み上げられた雪の壁にやむを得ず寄せなければならない状況が続き、送迎にはとても厳しい状況であった。

⑤労働災害の状況

労働災害1件：7月に物品運搬中の腰痛発症、約2週間の加療を行っている。

⑥内部監査の報告

特になし

⑦行政監査の結果

令和３年度の行政監査はなし

ケアプランセンター東部緑の苑

令和３年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

令和３年度　ケアプランセンター東部緑の苑　事業報告

【令和３年度を終了して】

年度前半はコロナウイルス感染症の流行があり自宅訪問などが十分に行えずケアマネとしての役割を十分に果たすことが出来ていなかった。また、職員の長期療養、退職、新規採用など十分な動きが出来ていなかった。９月以降は体制が整い給付実績が示すとおり数値的にも向上してきた。しかしながら、事業を運営していくには不十分で今後はより一層の件数を取り扱っていかなければならない。法人内事業所への紹介はニーズが合わない事もあって減少した。今後は、事業所担当者との連携を更に図り利用拡大に取り組む。北広島市からの認定調査については積極的に引き受け上半期と比較して倍以上の件数となっている。

【令和３年度利用実績】

１．給付実績　　単位：件

月	介護	要支援	合計（要支援0.5換算）	月	介護	要支援	合計（要支援0.5換算）
4	96	5	98.5	10	117	10	122.0
5	94	4	96.0	11	112	10	117.0
6	97	3	98.5	12	116	10	121.0
7	89	3	90.5	1	113	8	117.0
8	94	5	96.5	2	119	10	124.0
9	122	7	125.5	3	122	8	126.0
合計	592	27	605.5	合計	699	56	727.00
年間合計			1,332.5				

２．認定調査

月	件数	月	件数
4	4	10	23
5	1	11	9
6	0	12	22
7	8	1	15
8	11	2	4
9	9	3	1
合計	33	合計	74
年間計		107	

３．法人内事業所紹介率　　単位：％

月	ヴェール	東部緑の苑短期入所	月	ヴェール	東部緑の苑短期入所
4	56.3	70.0	10	43.2	66.7
5	54.8	54.5	11	45.7	62.5
6	56.7	66.7	12	46.0	42.9
7	53.3	50.0	1	44.4	46.7
8	46.7	44.4	2	46.3	52.9
9	47.7	64.3	3	51.1	46.7

【令和３年度事業計画の進捗状況】

１．幸福（しあわせ）を追求する事業展開

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
医療との連携	・地域拠点病院との連携強化	北広島病院と非常に良い関係性が構築された
	・終末期や難病等医療ニーズの高い方への積極的な支援	コロナウイルス感染症の流行、事業所の体制が整わず取り組めていない。次年度に向けて取り組んでいく
チームとしての取り組み実践	・困難事例等はチームとして対応、互いにフォローする体制構築	職員の入院、退職などの事態や困難ケースについても全員でフォローし取り組めた

２．地域福祉の推進を図る取り組み

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
希望する場所で最期まで暮らせる支援	・看取り支援推進委員会との連携	担当職員の入院退職により参加する事が出来なかった。今後、積極的に参加していく

３．災害に強い法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
担当利用者の把握	・担当する利用者の生活状況を把握更新し、災害時にサポート出来るように情報を整理管理	市内地図に利用者の自宅を入れたものを作成し非常時に直ぐに対応できるようにした

３．魅力ある法人づくり

目標	取り組み・行動計画	進捗状況
職員間の意思疎通	・気兼ねなく報告、連絡、相談が出来る組織の形成 ・明るく活発な雰囲気の醸成	下半期になり体制が落ち着き良い状況となった
職員育成	・主任介護支援専門員資格取得 ・国家資格の取得	退職や短時間勤務により、主任ケアマネが配置基準を満たすことが出来ていないが、１名が年度末に資格を取得、短時間勤務となっていた１名も４月からは通常勤務に戻る 社会福祉士国家資格取得に１名が挑戦したが残念ながら不合格であった